

平成22年第2回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成22年6月15日（火曜日）

午前10時開議

邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（16名）

1番	小島陸夫	議員	2番	遠藤幸夫	議員
3番	大野貞夫	議員	5番	田部井健二	議員
6番	小沢泰治	議員	7番	山田晶子	議員
8番	岩崎律夫	議員	9番	加藤和久	議員
10番	小島幸典	議員	11番	立沢稔夫	議員
12番	小倉修	議員	13番	横山英雄	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員
16番	相場一夫	議員	17番	石井悦雄	議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
河内登	教育長 職務代理者 学校教育課長
堀井隆	総務課長
小倉章利	企画課長
立沢茂	税務課長
中村紀雄	産業振興課長 兼農業委員 事務局長
相場利夫	生活環境課長
諸井政行	保険年金課長
横山正行	土木課長
石井貞男	都市計画課長
神山均	住民課長
小島哲幸	福祉課長
飯塚勝一	会計管理者 兼会計課長
増尾隆男	水道課長
大舩一	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

◎開議の宣告

○相場一夫議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

◎一般質問

○相場一夫議長 日程第1、一般質問を行います。

発言を許します。

◇ 大 野 貞 夫 議 員

○相場一夫議長 3番、大野貞夫議員。

[3番 大野貞夫議員登壇]

○3番 大野貞夫議員 皆さん、おはようございます。議席3番の大野貞夫でございます。

昨晩は大変ホットなニュースといえますか、私もいささか寝不足でございます。日本がワールドカップ、カメルーンに1対0で勝ったと、8年ぶりだそうです。日本列島が非常に沸きに沸いた、きのうの夜の出来事だったのではないかと思います。非常に久しぶりで、すばらしいニュースが飛び込んできたなという気持ちがいたします。

一方、日本の国内の政治を見ますと、いわゆる民主党政権が鳩山内閣になって1年もたたずにまたかわる、こういう非常に民主党の、いわゆる私は前回の一般質問の中でもちょっと触れましたけれども、自公政権にかわって民主党政権になった。ただ、この民主党政権になった、勝利をしたわけですが、国民は必ずしも民主党を真から支持をして勝った選挙ではない、このように私は思ったわけですが、まさにそのような状況がずっと続いてきて、そしていわゆる政治と金の問題、いわゆる一番政治家として基本的にきれいであればならないこういう点での、相変わらず自民党政権に追随するようなそういう民主党の姿は、余り自民党と変わらないのではないかと、こういうような状況の中で鳩山首相もとうとうやめざるを得ない、こういうふうにして追い込まれてやめた、そういうことだと思います。

その後、菅直人が今度は総理大臣になりました。私は、ある一抹の期待も菅首相には持った時期もありましたけれども、菅直人の今日の、昨日国会の代表質問の中にも、新聞に報道されておりますが、金と政治、この問題は当人の、いわゆる小沢幹事長、あるいは鳩山由紀夫氏が身を退いたということで一件落着きというようなことで、余り深追いをしないといえますか、これでなしというような雰囲気になっております。

普天間問題についても、彼は4年前までは、沖縄にいる海兵隊は抑止力にあらず、こういうふうにしてずっとやってきた本人が、今日では日米合意のもとに、あれだけ反対をしている沖縄

の問題を進めていくというような状況になっております。ましてや代表質問をする中で、予算委員会を一日もやらずにこのまま選挙に入っていく、まさに党利党略、選挙に勝てば何でもいい、このような国民を無視したような政治状況が、今の日本の国内政治の状態であります。

そして、平成20年9月のいわゆるリーマンショックに端を発したこの不況、一部でやや景気を取り戻しつつあると、こういう報道がありますけれども、依然として私たち一般庶民の感覚からすれば、そうは感じられません。国内の経済状況を示す内閣府の国民経済計算、これを示す指標を見ましても、雇用者の報酬や企業所得などを合わせた国民所得は、過去最大の減少幅を記録いたしました。国民所得の約7割という最大のウエートを占める雇用者報酬は、この10年ほどで27兆円、1割近くも減少いたしました。そして、貧困の広がりは一層深刻化し、生活保護世帯、この呂楽町も例外ではないと思います。この数も過去最多を更新し続けております。そして、何よりも国内の自殺者数が12年連続で3万人を超えている、このことに大変胸の痛む思いがいたします。自殺の理由は、経済的な要因が依然として多く、しかもこれが弱年化してきているというのも特徴の一つであります。これは、単に景気循環的な経済不況の問題ではなくして、人間の命の存続、あるいは暮らしそのものの維持可能性をめぐって、私たちは大変危機的な局面に立っていると思います。今その認識を持つ必要があると思います。

そうした考えのもとで、人間生活の再生産の場という根本的な視点でこの私たちの地域をとらえ直して、今地域再生に何が求められているか、このことを自治体も、また我々議会人も真剣に考えなければと思うわけではありますが、私の今言いました点につきまして町長はどのようにお考えになっておられますか、ひとつ感想でも結構です。お示しいただきたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のご質問、ご意見の中にもありましたように、世界不況を起こしたいわゆるリーマンショックを初めとする経済不況、これは世界各地に経済の面での悪影響といたしますか、出ているということは承知をいたしておりますし、最近ではヨーロッパのほうでも通貨を基調とした経済ということは、大変この疑念になっているということは承知をいたしております。そういった世界経済の中での日本国内の経済ということは、議員がご指摘をされましたように大変な状況にあるということも、私自身も認識をいたしております。そういった中での自治体の果たす役割ということではありますが、私はじかに国民、県民、町民と向き合う自治体こそが、真剣にそのことを受けとめた中で取り扱っていかなければ、行政運営をしていかなければならないのではないかとこのように思っております。

経済状況がこういうことありますので、税金等も大変な減収が予想されております。そういった中で、いかに町民の皆さんに安心して生活ができるような町民サービスを行っていくかということが、私どもに求められた大きな課題ではないかと、こんなふうに思っております。したがいまし

て、これからの行財政運営につきましても間違いのないような形での執行を行って行く中で、町民の皆さんのご協力をいただきながら進めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 ただいまの町長の感想を聞いておりますと、いわゆる町民の信頼、この信頼なくして行政の執行というのはなかなか成り立っていかないと思います。その点については、町長にも今までの何カ月間、もう2年半になるのですか、町長に就任をされて。この間の町長自身の言動から見ても、私はちょっと心配をする面が多々あるわけでございますので、その辺はひとつ心して、きちっとした自分の出处進退、あるいは言動に対しても、やはり責任を持ってきちっと町民に向かい合うことができるような、そういうことを切に望んでいきたいと思っております。

今回は、町の中小零細企業、これに対する基本的な問題ということで私は質問をさせていただくことになるわけですが、まず最初に産業振興課長にちょっとお尋ねをしたいと思っております。まず邑楽町内のいわゆる事業所の数、これの数と、大まかで結構ですから、その内訳がわかりましたらお示しを願いたいと思っております。

○相場一夫議長 中村産業振興課長。

〔中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長登壇〕

○中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長 お答えいたします。

邑楽町内におけます製造業、小売業等の業種別の事業所数でございますけれども、統計の結果が平成18年ということでちょっと古うございますけれども、現状はそれほど差はないということで報告をさせていただきたいと思っております。

現在邑楽町の総事業所数は1,022社ございます。内訳でございますが、製造業が271社、卸し、小売業が240社、建設業が113社、飲食店、宿泊業が96社、医療、福祉関係が47社、運輸36社、その他ということで工務関係、サービス業等の関係が219社でございます。この中で、1,022社の中に大企業が8社含まれておりますので、中小企業ということになりますと1,014社ということになるかと思っております。

以上でございます。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 ただいまの産業振興課長のご説明でおわかりのように、私も町内にこれだけの事業所があるのかなとびっくりしたわけですが、1,022社、そしてそのうち大企業とされているものが8社と、残りの1,014社というのがいわゆる中小零細企業ということになるわけですが、この邑楽町の状態を見ても、いかに中小零細企業が、実際にはこの町の大事なところの中核をなしているのだなということが、これを見ても歴然としていると思っております。

それから、もう一つ産業振興課長にお伺いをいたしますが、いわゆる中小零細企業に対しての町としての優遇策といいますか、融資制度、これも大まかで結構です。ちょっとお示しをいただければ

ばと思います。

○相場一夫議長 中村産業振興課長。

〔中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長登壇〕

○中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長 現在邑楽町が行っております町内企業への支援策についてご説明申し上げたいと思います。議員のほうからは、融資制度ということでお話でございますが、全般的なことについて説明させていただきたいと思います。

町内企業への支援策につきましては、先ほど議員からご指摘もありました制度融資による支援、町による直接的支援、商工会を通じての支援等の大きく3つに分けて支援を行っているところでございます。平成22年度の町内企業への支援に要する当初予算では、約1億1,100万円ほどになっているところでございます。

主な施策としまして、先ほどご説明申し上げましたが、全業種に対する共通的な支援策としましては、資金需要に対応した町独自の制度でございます中小企業振興資金、小口資金等を初め、制度融資を創設して支援を行っているところでございます。その中で、中小企業振興資金につきましては、借入金の利子に対する助成、保証料等に対する助成等を行っております、近隣の市町の制度に比較しましても、この部分については手厚い支援となっているところでございます。また、町内小企業者等が緊急的に必要な資金の融資、それとISO等の認証取得に対する支援等も行っております、その成果が出ているものでございます。

その中で、商業者等と工業者等に個別に分けての支援の中身についてご説明申し上げますと、商業者への支援策につきましては、商工会が現在行っております商工支援相談事業への助成を行っているところでございます。この事業につきましては、商工会が相談員を雇用いたしまして、商業者への個別訪問を行っているものでございまして、毎月110社ほどを訪問しまして、その経営状況についてご相談をさせていただいているところでございます。

それと、平成20年度には商業者支援ということで飲食店マップ等も作成いたしまして、町民の方々に配付をさせていただきました。それと、商業者支援としまして町内商業者で組織しております町スタンプ会に対しまして、スタンプ券の発行等に要する助成、それと11月には町の三大イベントであります産業祭等を実施いたしまして、町商工業者の販売の促進に対する支援策を講じているところでございます。

それと、商工の担当ではないのですが、地産地消の取り組みとしまして、町内で生産された農産物を販売しているお店、または食材として使用しているお店に対しまして、地産地消店の推奨店として現在認定のための募集を行っております、認証することによりまして販売の促進に寄与していけるということの施策を講じているところでございます。

それと、工業者への支援策でございますが、先ほどの商業者と同じく商工会が行っております商工相談事業への助成を行っているところでございます。これも、工業者等へ相談員が個別訪問を行

いまして経営指導を行っているところをごさいます、毎月40社ほどを訪ねて相談を受けているものでございます。

特にこの部分については大きな成果を発揮していただいております、県の認定制度でございます1社1技術の認証取得については町内50社の方が取得をされまして、その他環境への取り組みということで、環境GS（ぐんまスタンダード）認証というものがございまして、これも44社の会社の方が取得しました。この取得結果については、両方とも県内でもトップクラスの取得状況でございます。

それと、最後になります、進出企業に対する企業の誘致奨励金、既存企業への設備投資の支援策としての企業立地奨励金等の制度を設けて、町内商工業者への支援策を講じているところでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 今るる説明がございました各種の優遇政策といえますか融資事業、各種いろいろあったわけですが、もう一つここで私ちょっとお尋ねしたいのですが、これは多分総務課の扱いになると思うのですが、今邑楽町では小規模工事契約希望者登録制度、こういうものを導入しておるわけですが、この登録制度についての概要を、これも簡単に結構です。ご説明をいただきたいと思えます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

〔堀井 隆総務課長登壇〕

○堀井 隆総務課長 小規模契約の関係をご説明いたします。

邑楽町が発注する小規模な土木工事、建築工事、業務委託、物品購入などの契約のうち、入札参加資格名簿に登録されていなくても邑楽町と小規模な軽易な内容の契約をすることができるということで登録制度がございまして、町内に主たる事務所を有する方ということの規制がございまして。

なお、20年度、21年度につきましては72社が登録しております。22年度からまた切り替えでございまして、現在34社が再登録しているところでございまして。

以上でございます。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 ただいまはご説明ありがとうございました。

邑楽町の小規模契約登録の問題については、ただいまご説明をいただいたわけですが、私もこの問題についてはちょっと調べてみました。そうしますと、これは3月末日現在の調査結果なのですが、この登録制度を採用している自治体、これが全国で439の自治体で実施をされております。この47都道府県に広がります439自治体ということは、県の段階では鳥取県が実施をしております。これは、全国の、いわゆる1,750市区町村があるわけですが、この25%に当たる自治体が既にこの

登録制度を実施しているという結果が出ております。

ちなみに、我々の県である群馬では、現在18の自治体の実施をしております。これは、この制度を一番先に取り入れたのはお隣の大泉町、ここが2003年の8月、この群馬県下で初めて創立をしたということになっております。群馬では、いわゆる市の段階では11ですか、あるわけですが、この11の市は全部これを導入しております。それから、この邑楽郡では邑楽町、それから明和町、大泉町、千代田町でこの制度を取り入れてやっております。これは、今仕事が非常にない、こういう仕事が激減するという中での仕事確保によって、いわゆる緊急な、もう切実な要求になっているわけです。この制度の創設、またそれをより充実したものにしていくということに対しては、業者に大変歓迎をされている。これが地域の経済の活性化にも大変つながっているという結果が出ております。これは、やはり今中小零細企業に対する一つの大きな力強い応援になっているということが言えると思います。

先ほどいろいろ説明のあった中で、今年度、邑楽町の22年度の予算の中身でちょっと見てみますと、商工費、いわゆる商工振興費というのが1億3,923万3,000円、約1億4,000万近くの商工振興費というのが計上されております。これは、その中身なのですが、いわゆる特定財源として2,833万7,000円、あとの残りを1億1,089万6,000円、これが我々の一般財源からの持ち出しということになっています。商工振興費を大きく分けると、先ほど産業振興課長のほうからも説明がありましたけれども、大きく分けると商工振興事業、これが1億340万7,000円、それからもう一つの制度融資事業、先ほどいろいろ説明がありました融資事業、これはどちらかといえば、いわゆる中小零細企業に対する兼ね合いが強いわけですが、これが3,581万6,000円、こういう数字が計上されております。これを見ますと、いわゆる商工費の扱いということでどうなっているかということ、今言ったような商工振興事業と制度融資事業の割合というものは、約3対1なのです。商工振興事業の中でも一番大きい予算の計上をされているのが、この予算書の中にもあります企業誘致の奨励金、これが5,580万6,000円、こういう数字になっております。

それからもう一つは、これもいわゆる大企業の企業立地奨励金、これが2,972万7,000円、そういうことになっています。この1億三千四百何万の中の大多数を占めているのです、この企業立地奨励金。一方では、今言った中小零細企業に対する制度融資事業というのは3,581万6,000円。ですから、大体の計算でいくと3対1ぐらいかなと、こういう数字の実態がこの予算書の中でも見られるわけです。

私は、いわゆるこの企業誘致という問題については、かねがね、大体今までは、企業誘致によって地域の活性化を図る。こういうことで、各自治体が誘致の補助金競争というのですか、誘致をするための補助金を出してやってきた。こういう傾向が一つ、今までずっと続いてきた。いわゆる一つの常識とされていたわけですね、そういう点では、この企業誘致や大型公共事業への依存、これが今の時代で果たして効率的に、我々の一般庶民の生活にどうなのかという点から考えると、やは

りバブルがはじけて、そしてリーマンショックによる経済不況ということで、いわゆる各大きな企業が撤退をしたり、縮小したり、人員整理をしたりということで、今やこれが昔みたいに通用しなくなったのではないかと私を強く感じておるわけです。

そういう点で、これからのいわゆる自治体の果たす役割というのですか、そういう点を私いろいろ考えてみますと、この経済危機によって誘致企業に依存した地域づくりというのが、非常に不安定な地域経済、地方財政の構造をつくり出していることが、ここで浮き彫りになってきたような気がいたします。そういう点では、この呂楽町も合併したほうがいいのではないかと、大きなところと一緒にくっついてやったほうがいいのではないかと、いろんな意見がまだまだあるわけですが、今こういう地域づくりに求められている中で、どうしたら呂楽町を活性化させて、そこに住んでいる人たちが本当に幸せになれるような、そういうような地域づくりに求められているというものについては、私はある本でちょっと知識を得たのですが、地域内の再投資力という言葉があるそうです。地域の中でいかに投資の主体を強めて、いわゆる地域の中の内需を拡大して、地域内の経済循環をどうつくり出していくか、こういうことが非常に大事なのだなということを思います。

これと同時に、町内にもありますいわゆる大企業と言われるところにも、いわゆるリストラや人員整理を簡単にやるようなそういうことではなくして、大企業に雇用責任というものをきちんと果たさせる、こういうものとあわせて進めていく必要があるというふうに考えておるわけです。

地域に密着した多くの中小零細企業、あるいは農家もそうです。農家等に所得が生まれてくるといった視点での仕事おこし、それから今の時代はやっぱり福祉だとか、環境分野などを含めた政策、呂楽町も今回太陽光発電に対する、額は非常にまだ少ないですけども、そういう補助も始めたわけですが、そういうことも含めた、いわゆる国の財源も活用しながら、自治体として地域の産業を維持し、また住民生活の中から出てくる町民のニーズに沿って新たな仕事をつくり出していく、そうした動きを地方自治体が投資する主体として、その財源と権限をどう生かすかということが私は問われているのではないかなというふうに思いますが、町長、その辺の考え方としてはいかがですか、お尋ねをいたします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町におきます産業構造というのは、本町では農業、工業、商業、いわゆる農工商の事業が一体となった形での町づくりということが大変大切ではないかというふうに思っておりますし、行政運営もそれらを基調として進めてきているという状況にはあります。

議員のご指摘の中での大きな視点として、町にそれぞれ、1,022社からの多くの中小企業者といえますか、立地をしていただいて、経営活動を行っていただいているところではありますが、その中で制度資金のことも課長から回答させていただきましたが、いわゆる企業誘致の関係については、議員がご指摘されますように今までの形でいいのかということもありましたが、この誘致活動をす

ることによって、町の工業団地に多くの企業が立地をいただいたということもあります。

そしてまた、企業立地の奨励金については、こういった時代です。企業がほかの地域に転出をしようという状況もあるものですから、そういった面を抑制するというような形で、そういった奨励金制度を設けさせていただいたということがあります。この制度は、実は邑楽町の場合は、先ほど課長が申し上げましたが、他の市町村に先駆けて実施をしてきたということでもあります。この適用期限というのが5年ということの長い期間でありますので、ある面では町の税収の面での部分と兼ね合わせますと、もう少し期間の短縮ということも必要かなという思いはあるわけですが、しかしそういった制度を利用することによって、いろいろ税収等の確保にも当たってきたというものであります。

さて、そういった中小企業者に対しての補助制度の中に雇用の問題もありましたが、町内の町民の皆様を雇用した場合については、その条件に適合した中で、やはり雇用推進という立場から補助制度も設けているところでございまして、そういう点では中小企業の皆さんに有効に活用していただける面があるのではないかと、こんなふうに思っております。

さて、町内におきますところの小規模契約者の問題であります。72社、この4月では34社の方が登録をしていただいたということでもあります。議員がご指摘されますように、いかに町内の企業の活力を生み出すかということを考えますと、これは町内の事業者の方に、ぜひ行政面だけでなく、町内の企業ということに積極的に参加をしていただくということでは、私は大変よろしいのではないかと考えておりますし、大泉町さんが2003年の8月に他に先駆けてというお話がありましたが、邑楽町でもそういった状況を踏まえて小規模契約の希望者についての制度もつくらせていただいて、現在運用を図っているところでございまして、細かい数字を申し上げますと72業者でございますが、そのうち契約実績ということで申し上げますと79件の実績がありまして、金額では1,070万9,000円ほどの利用をいただいたというような状況もあるわけでございますので、これからもぜひ小規模契約に値する業者の方にも登録をしていただいて活用していただければと、こんなふうに思っております。

さて、これからの町内の各産業、農業、工業、商業の活性化ということの中でのお尋ねがございましたが、最近それぞれの業種で後継者の問題が大きな課題になっております。この課題をいかに克服するかということで、大変それぞれの経営者の方は、農業者も含めて苦慮しているところでありますが、これについては国のほうでもいろんな制度を考え、そして町のほうでも予算の許す範囲内のいろんな状況を考えていく中で進めていかなければいけないのかなというふうに思っておりますので、これからいろんな課題が多くあるだろうとは思いますが、町としてもそういった制度を有効に利用した中で行政運営をしていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 今お話があったわけですが、金子町長は就任時いわゆるこの町のトップセー

ルスとして、町の例えば具体的に、昨日も話が出ましたけれども、邑楽町でとれたお米を1万8,000円で買い上げる。それを町のブランド米として利用することによって、新たないわゆる独自の製品をつくり出していくというような感じで私は受けとめていたわけですが、そういう当時の意欲が今あるのかどうかちょっとわかりませんが、いわゆる私が今まで言ってきたそういう地域に密着した、業者の方と一緒に町おこし、経済の活性化を図っていくという点については、やはり邑楽町は町としての地域資源というのですか、そういうものがいろいろ探せばあるのではないかと思うのです。

よく言われるのですが、経営資源ということではよく人、もの、金といいます。こういう有形資源、それから情報とか知識とかブランド品をイメージ、こういう無形資源というものもあるわけですが、地域経済全体として考えた場合、この場合はやはり今邑楽町にあるところの先ほど言った一千何社、こういう製造業あるいは小売業、それから農業と、こういう経営者のそれぞれのマネジメントというのですか、こういう能力を持っている人がいっぱいおります。それから、そこで働いている人たちの労働者の技能、生産技術、それから小売業にすれば販売とかマーケティングの方法、こういうことも考えられるわけです。

自然資源として見た場合は、邑楽町は水と緑の町と言われています。こういうものが、多々良沼には毎年のように白鳥も来ておるわけです。こういうことの、今ここで何と言われても私も困るわけですけども、2万8,000町民の知恵と工夫を本当に集めて邑楽町独自の何かできないか、そういうことをいわゆる町執行部とすれば本当に真剣に考えてやっていくことが、これから必要になってくるのではないかなという気がいたします。

そこで、2つ目の問題にもう入りますが、今……

○相場一夫議長 大野議員、休憩をとりますか、2つ目の問題……

○3番 大野貞夫議員 いいですよ、やってしまいます。

○相場一夫議長 続けていきますか。

○3番 大野貞夫議員 みんな疲れていますかね。

○相場一夫議長 80分とっていますから。

○3番 大野貞夫議員 はい。では、休憩をお願いいたします。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

[午前10時48分 休憩]

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

[午前11時05分 再開]

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 それでは、引き続いて2問目の住宅リフォーム助成制度について、この件についてご質問を申し上げたいと思います。

初めに、金子町長は、この住宅リフォーム助成制度ということについての認識はございますでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 余り詳しくはございませんが、他の市町で実施しているということについては、若干ではありますが、承知をいたしております。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 今のお答えですと、余りよく詳しくはわかっていないようですね。

今この住宅リフォーム助成制度というのが、これも全国的に広がっております。現在実施している、これも3月の31日現在ですが、30都道府県、154自治体がこの制度を取り入れております。県の段階では、秋田県がこの制度を実施しております。昨年5月、1年弱前になるのですが、このときと比べてみますと、1.8倍にふえているという調査結果が出ております。

いわゆるこの住宅リフォーム助成制度というものについては、今新築の家をつくる、今のこういう経済状況の中ですから、新しく家をつくるということはよほどのあれがないとなかなかできないわけです。今現在住んでいる既存の住宅、これを改築、改修、修繕、修理をしながら住んでいくというのが、非常に今は多くなっているということが統計上も明らかになっております。この状況をかながみて、やはり今あるところの特にこういうリフォーム助成制度となりますと、むしろ大きな事業所よりも半ば、先ほどから申し上げているような中小零細企業、こういうところの業種の皆さんが非常に恩恵を受ける、こういう結果にもなっております。簡単に言いますと、町民が住宅の改修工事などを行う場合、それに要した費用の一部を町が助成する、こういう制度になっております。

業者については、町内の建設業者に依頼することが条件ということで、その内容的には増改築に加えて修繕、模様替えですか、土台とか塗装、それから避難設備の設備工事、建具の取り替え、壁紙の張り替え、その他居住性を良好にするために必要な工事、こういう対象も非常に幅広く、使い勝手のいいものとなっております。

これを実施している各自治体を今言ったわけですが、この154自治体の中でも、内容からするといろんな種々さまざままでして、例えば工事費が50万以上とか、あるいは80万以上とか100万以上とか、中には大きいのは500万とか1,000万というものもございます。これに対しての助成率もいわゆる地域によって違いまして、大体5%から、大きなところでは25%なんていうのもあるわけですが、大体平均しますと5%あるいは10%、このクラスが非常に多くなっております。

ちなみに、群馬県ではまだ2つしかありません。1つは、この邑楽町のすぐ隣にあります明和町、ここがこの制度を取り入れております。それから、もう一つは中之条町、ここがやはり取り入れて

おります。これの助成率が5%です。上限が10万円ということで、工事によっては上限10万までは助成をしますよという制度になっております。ちなみに中之条町の場合では、予算規模として年間200万円。ですから、そんなにばかげて高い予算を組んでやるというのではなくて、まずはこの制度をやっぱりつくっていくということによって、これを利用する人たちが非常に、もうどんどん多くなってきているわけですから、それによってはこの額をもう少しふやしていくと、こういう傾向が今154自治体で実施をされ、今なおかつこれが非常に広がりを見せている。こういうことによって、もちろん地域の皆さんからも大変喜ばれておりますし、それから地域経済への波及効果というのも明らかになっております。

こういう制度を私は、一つこれは提案型の質問になるわけですが、邑楽町でもぜひひとつ検討してみたらどうかというふうに思います。いわゆる町内の施工業者を利用して、地域経済の活性化を図る制度の創設ということになるわけですが、この住宅、それから店舗も入ります、店舗。住宅、店舗リフォーム制度の創設についての提言ということで、これは先ほど総務課長からもお話がありましたような小規模登録業者、この制度とタイアップをしてやると非常に効果が私は大きいのではないかという気がいたします。そういう点では、登録されていないいわゆる小さな零細企業の業者も含めて、すべての施工業者を対象にしたまさに町内の関係業界全体への支援策ということも考慮した制度でありまして、地域経済の活性化を図ることが最大の目的であります。この制度は、町内に住み納税義務など一定の条件を満たしている場合に限り、一定額を町が補助するという制度になっておるわけですが、この点について、町長も詳しい話は初めてのようなことですからあれですけども、私の今言った提言ですけども、感想をひとつ述べていただければありがたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 住宅リフォーム制度の創設をということのご質問でありますけれども、このリフォーム制度につきましては、若干ではあります、限られた条件の中ではあります、1つには町内の勤労者に対して一定の条件をクリアした場合の住宅の新築、増築、改築、いわゆるリフォーム部分については融資制度もあるわけですが、加えて福祉関連としては、これはまた身体障害者の手帳を所持をしているという方に限られるわけですが、小規模な住宅の改修、いわゆるリフォームについては20万円を限度した中での制度というものはあるわけです。つい最近も、いわゆる地球環境の温暖化防止も含めた中でのエコ活動、そういったことを国のほうでも、そういった省エネ対策に対する考えで今いろいろ議論をしているところでもあります、町のほうでも若干ではあります、そういった制度も活用していただくべく予算化をさせていただいたということもあります。

さて、いわゆる小規模に関連をしたところのリフォームということについては、県内でも、先ほど申されましたが、明和町それから中之条町、そしてリフォームに該当するかはちょっと外れるかもしれませんが、県のほうでも県産材を利用したところの補助制度ということもあるわけですので、

そういう点では最近特に新築ということを考えますと、大変な経済状況でもあります。議員がご指摘をされましたように既存の住宅をリフォームした中で、いかにその利用期限を高めるかということとは大切なことだろうというふうに思っておりますので、提案ということでもございます。研究をさせていただいて、これからそういった状況がつくっていければということにしたいと思っておりますので、研究をさせていただきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 大野貞夫議員。

○3番 大野貞夫議員 ぜひ実態を当局としてもいろいろ調べていただいて、やはりプラス効果、これが本当に先ほど来私申し上げていますように、この地域の町おこし、活性化のためにも、私はこれは非常にいい有効な施策になるのではないかなという気がしております。

この政策というのは、非常に長いスタンスで見ても、既存の住宅というのはもう相当な数があるわけですから、これが年数がたてば耐用年数もだんだんたっていきますし、当然修理、修繕というのは必要性が出てくるわけです。そうすると、そこにおける仕事の量というのは、これは必然的に出てくるわけであって、いわゆるどちらかといえば、お金にある程度余裕があって何とかできる人はまだいいですけども、非常に大変な中で、生活の苦しい中で、しかし住むところの居住性が、どんどん古くなって住みにくくなってくれば、当然そこで何らかの手を打たなければならない。

私は、前回の一般質問の中でも言ったわけですが、例えば町内の町営住宅の問題、この町営住宅の問題についても非常に生活しにくい、住みづらい、いろんな障害が出ているわけですが、こういうものもやっぱりこういう小規模の制度を使うことによって、大規模な工事は仮にできないにしても、ちょっとした業者が行ってやる仕事というのは、もう相当な数が出てくるのではないかという気がいたします。そういう点でも、この制度をぜひ研究していただいて、次の議会、本会議なりに何らかの形で、もっと明確な答弁がいただければ大変ありがたいと思うわけでございます。

時間も間もなく終わるわけですが、私最後に一言また申し上げたいのですが、こういう何をやるにしてもやっぱり町のトップは、いわゆる邑楽町の、邑楽丸の船の船長さんというのは町長になるわけです。それを常に、両輪のもとになっていくのは議会という、この議会と町の執行部が両輪のごとく力強く前進をしていくということが、やはり町づくりの一番基本でなければならない。そのためには、やはりそれに耐え得るだけの信頼性と、それからトップの町長からすれば、職員からも十分な信頼、そういうものが置かれる中で行政の執行というものをしていかなければならないのではないかと思います。そういう点については、いつも同僚議員からもいろいろ意見が出ますけれども、やはり自分のきちっとした対応の仕方、これが過去のあなたの言動を見ていると非常にその点がちょっと心配になって、ずっとその目で私はあなたを見てきたわけですが、その考えは今でも私は変わらないわけです。それに耐え得るだけのきちっとした資質のある行動、言動をぜひともお願いして、非常に言葉は整いませんけれども、今回の質問にかえさせていただきたいと思っております。

ありがとうございました。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午前 11時24分 休憩〕

〔14番 本間恵治議員出席〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時00分 再開〕

◇ 横山英雄議員

○相場一夫議長 13番、横山英雄議員。

〔13番 横山英雄議員登壇〕

○13番 横山英雄議員 13番、横山英雄です。発言通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

その前に、議長にお願いがありますが、この発言時間は私に与えられたものと思います。私が答弁を要らないと言った場合には指名はしないように、きのうは小島議員のときありましたから、そういうふうをお願いします。

私も3年ぶりですので、どこへどういうふうに行くかわかりませんが、余りうまくできないと思いますが、よろしくをお願いします。そして、所管の課長の場合は指名はしませんから、そのほかの課長さんにはいつ指名が行くかわかりませんので、よろしくをお願いします。

金子町長は、職員として39年、そして議員として4年6カ月、町長になって2年6カ月、すばらしい経歴の持ち主です。しかも、職員当時は3月31日定年まで最後まで勤め、退職金も満額いただいて4月の町議選に立候補し、見事トップ当選を果たしました。2回目の選挙でもトップ当選、そして途中の12月2日の町長選挙においては、立候補により失職をするまで議員として職責を全うし、見事当選されました。そして、私の親戚等にも何度も行ったそうですが、家はこういうのだから来ないでくれと言われても、何度も何度もお願いしますと行ったその熱意に負けた方もいたのかな。

それと、あなたのこの豊かな経験をもとに健やかに発展する新生邑楽町をつくりますと。そして、金子正一6つの約束、100%の情報公開、書かなくても持っているでしょう、自分の約束ですから。情報を公開し、共有しますと、情報提供とともにすべての説明責任を果たしますと、そして広く町民の意見を取り入れます。月に1回町民との直接対話の機会を持ちます。土日の議会の開催を検討します。調和のとれた地場産業の育成、農畜産の再生への取り組み、商工業の振興に努め活力ある町づくりを進めますと。そして、スピード感あふれる町政の運営、15歳までの医療費無料化実施などの子育て支援、子供、障害者、お年寄りの福祉サービスの充実。そして、6つ目が広域行政への取り組み、隣接市町との積極的な対話推進、介護施設、緊急医療、高度医療施設等の充実と、こういう6つの公約をやりました。まだいいのがあるよね。これですね、決定的なのは。金子正一、0

円。金子正一は、町長の退職金約1,400万円をいただきません、15歳までの医療費無料化に充当いたしますと。

また、心は一つ、町も一つ、防犯対策、子育て支援、高齢化対策、地産地消に努め邑楽ブランドを立ち上げますと、邑楽町独自の邑楽の米プロジェクトを立ち上げますと。私は行かないからわからなかったのですが、JAの会議室ですか、そこであなたが、ゴロピカリ1万8,000円。地産地消で邑楽町民に2万8,000俵ですか、そのようなことを言って、農家のおとっちゃんはみんな米が安く困っていますから、金子町長になったら米高く買ってくれると、百姓は金子町長でなければだめだと、こういうふうに一生涯懸命応援しました。

そして、この退職金0円はできるはずがないと、何度も対抗馬からいろんなピラも出たし、あったと思うのですが、最後まであなたはできるのだと、町長になっても答弁で、できますと言い続けてきました。2年6カ月、いまだにその約束が守られていない。

ことし7月に就任した大澤正明群馬県知事は、知事の退職手当を廃止する特例条例案を議会に提出、可決されています。金子正一は、同様の条例案を検討し、議会に提出しますと言い切ったのです。したがって、公職選挙法違反には当たりませんと。また、これは特例条例案でありますから、町職員約210名が加入している群馬県市町村総合事務組合から町職員が脱退する必要はありません。職員には一切迷惑かけないと、私が1人でできるのだと。これピラでやったのではないかな、覚えていますか。

それと今度は、金子正一は町職員とともに汗を流し、達成感と喜びを与える町づくりに真剣に、誠実に取り組みます。そのためには、まず町職員が堂々と安心して意見の言える、公平、公正な議論の場をつくりますと。2番として、意欲ある職員の資質を伸ばし、生き生きと働ける職場を目指して、さまざまな自己研鑽の場を提供しますと。行政の意思決定システムについては、システムを構築します。町の政策決定については、密室で行うのではなく庁議を制度化し、集団的に議論する中で広く職員の意見を聞きながら意思を決定していきます。全職員、臨時職員を含め300名以上の名前と顔を覚え、円滑な意思疎通が図られるように努めますと。やっていますか、こういうこと。課長に一人ずつ聞いてみるかな。

それに、あなたは3月31日まで職を全うし、職員を退職されました。充実感ありますね。あなたが町長になって2年6カ月、その間にやめた職員、退職された職員、定年までいた職員と、数を知らせてください。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

〔堀井 隆総務課長登壇〕

○堀井 隆総務課長 お答え申し上げます。

19年度、20年3月31日、10名。20年度で21年3月31日、13名。21年度、22年3月31日で9名。合計3年間で32名の退職者でございます。定年退職は、うち17名でございます。

以上です。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 ただいまの総務課長からの報告では、32名中17名が職を全うしたと、半分ぐらいです。あの方はどうしたのですかね、このことについてどういうふうに考えますか、町長。何か町長に原因があるのではないですか、ちょっとお答え願います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私が就任でお世話になってから退職をされた職員が32名、そのうち定年で退職をされた方が17名ということで総務課長からの報告がありました。残り15名について定年退職前ということで、町長に何か原因があるのではないかということではありますが、私は定年を迎える前に退職をされた方については、それぞれの職員にそれぞれの理由があるということで退職をされたということで認識しておりますので、私はそういう方々には、慰留には再三にわたりまして努めてはまいりました。私に何か責任がある、原因があるのではないかということについては、思い当たる節はございません。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 自分が3月31日まで勤めた経験をもとに、途中でやめようという職員の慰留に努めたと言いますが、私は何度か、やめた職員ではありませんが、職員とそういう話をしたことがあったときに、どこへ行っても邑楽町の看板をしょっているのだから、課長さん、課長さんと、ちやほやちやほやどこでもされるのだと。それが、私は役場をやめてきましたと、今度アルバイトで使ってくださいと行ってみると、二度と来るなと言われると、そのくらい役場はいいところなのだ、民間はそんな甘くない。悪いけれども、おめえら課長が口ばかりで、仕事ができなくても金をたんともらうような、途中から来たやつを使う会社はないと。

前にも言ったことありますけれども、町長の大先輩、青山敏雄さん、悲しきかな宮仕えと。子供が親を選ぶことができないのと同じように、今邑楽町では首長が金子さんなのだ、それに逆らったらやめるしかないのだと。白いものが黒いと言われても我慢しなくてはならない、そういうふうに言ったことがありますよ。そして、何の生活の心配もない、家族もやめたほうがいいよと周りが言ってくれる、自分もあんな社長の下ではやりたくはないと。そういうことが周りに了解されない限り、我慢して勤めていると、そういうことを言ったこともあります。

町長は、すばらしいこういうことを掲げておきながら、間違いは職員のせいにする、自分がトップでありながら謝らない。うまくいけば私がやりましたと。本来ならば、職員との信頼関係を結ぶのであれば、いいことは職員を褒めて、間違いが起きたときは自分が謝って、勘弁してくれと言うのが頭の役ではないですか。職員が、本当にこの町長の下で、町民のために一生懸命よくなるよう

に仕事がしたいと思う職員が、あなたはどれくらいいると思いますか。自分の判断で結構ですから、職員の何%くらいいると思うか、教えてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 何名の職員が私を信頼して仕事をやっているかというお尋ねですが、私の気持ちとしては、全職員一丸となって仕事をやっているというふうに認識しておりますので、職員が私を信頼しているかどうかということは、一人一人聞いたことはありませんが、一つの気持ちで町政運営に当たっていると、そのように認識をいたしております。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 すばらしいですな、全職員がねそれでは。

先ほど言った町職員とともに汗を流し、達成感と喜びを与える町づくり。これは、一つの3月定例会の当初予算を出すのに当たって、職員と意思の疎通を図り、職員すべてが共有してあの予算をつくったのか。課長一人ずつ、一緒に加わったか答えてみてくれる、企画課長からずっと。

○相場一夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

予算づくりですが、自分の持ち分を一生懸命研究しまして、つくってまいりました。その中では、町長とも一緒に研究しまして、つくってきたところでございます。

以上です。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 堀井総務課長。

〔堀井 隆総務課長登壇〕

○堀井 隆総務課長 財政担当課長として全体のものをまとめてきましたので、全課長とも意思が通じていると信じております。

以上です。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

〔河内 登教育長職務代理者 学校教育課長登壇〕

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 お答えを申し上げます。

予算につきましては、例年そうではありますが、私どもの守備範囲につきましては課員とともども予算の見積書をつくりまして、当然財政担当課長、係長、そして町長の査定を受け、私どもの守備範囲の予算を決める、そういう形で進めさせていただいております。

以上でございます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 大肱生涯学習課長。

〔大肱 一生涯学習課長登壇〕

○大肱 一生涯学習課長 予算の関係でございますけれども、自分の所管の課員、館長とすべて予算の関係は協議し、それを積み上げ財政当局、それと町長の査定等も含めまして、予算につきましては協議をした中で決定してまいりました。

以上でございます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 飯塚会計管理者兼会計課長。

〔飯塚勝一会計管理者兼会計課長登壇〕

○飯塚勝一会計管理者兼会計課長 お答えいたします。

会計課としては、町の予算がスムーズに執行されるための、予算執行ができるような計上をしてまいりました。会計課としては政策的な予算がございませんので、予算がスムーズに執行されるための事務の予算を計上いたしました。

以上です。

○相場一夫議長 相場生活環境課長。

〔相場利夫生活環境課長登壇〕

○相場利夫生活環境課長 予算につきましては、関係する所管の予算につきまして係員と協議をしながら、査定を受けまして組んできたところです。

以上です。

〔「不満があれば言っていんだよ」「みんなで上程して一方的に予算を削ったのは、じゃ何なんだよ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に願います。

〔「矛盾があるだろう」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 諸井保険年金課長。

〔諸井政行保険年金課長登壇〕

○諸井政行保険年金課長 お答えいたします。

平成22年度当初予算の編成のときに、私は福祉課でございました。そのときには、社会福祉、児童福祉、障害福祉、また各保育園、児童館、各所管の1年間に見込める歳入歳出すべてについて予算要求をいたしまして、総務課長査定、町長査定を受けまして、予算の上程をお願いしたところでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島福祉課長。

〔小島哲幸福祉課長登壇〕

○小島哲幸福祉課長 お答え申し上げます。

予算編成時は、私は税務課におりました。町の歳入の根幹をなす部分でございます。私それから課長補佐、係長、そして職員を中心に1年間の見込みの収入、それらを財政サイド、町長のほうの査定を受けながら予算を編成してまいりました。

以上でございます。

○相場一夫議長 神山住民課長。

〔神山 均住民課長登壇〕

○神山 均住民課長 お答えをいたします。

私も当時は保険年金課に所属しておりましたが、まず係員、そして係長、課長補佐、そして私どもで協議をし、さらに財政担当、総務課長、町長と協議をしながら編成をさせていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 立沢税務課長。

〔立沢 茂税務課長登壇〕

○立沢 茂税務課長 予算編成当時につきましては、企画課におりました。企画課所管の予算につきましては、企画政策推進係、情報政策係、そして統計係、それから広報広聴係の担当職員と協議しまして、その後財政担当課及び町長とヒアリングを行いまして提出をさせていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 所管はよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 責任持って予算を組んだわけですね、課長は。人事権というのは首長にあるのだから、おまえあっち行けと言われればしょうがない。出しておきながら異動というのは、どういうわけですか。6人課長が異動しているのです。どういう考えで異動させたのか、ちょっと伺います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 職員については、町の行財政運営をつかさどるということでございます。当時所管でないところの課長もおりますし、また違った場所から現在の所管をつかさどっていただいているということでございます。したがって、人事異動については当然課長も職員もそのとおりだと思いますが、その職務に精励すべく努力をし、その予算執行を行っているところでございますので、人事ということについてはそのような考え方で行ったというものでございます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 課長は、責任を持って1年間の、この課でこういう予算でやりたいと出して、それを上げてきたのではないですか。せつかく自分が考えてやろうとして、真剣に考えて予算を上げてきたのでしょうか、そして首長と話し合いで決めたのでしょうか。4月1日からあっち行けと全然関係ないようなところへやられて、大変ですよ、また覚えなくてはならない。自分が組んだ予算ではないもので、1年間仕事をしなくてはならない。それは、若い5年も10年もある人ならいいですよ。あと何年かで定年になる人が、また新しいところへ行ったら何か覚えながら仕事するのですか、それは町民にマイナスになるでしょう、そんな人事をしたら。自分の右腕、左腕の副町長、教育長も選べない、出せないやつが、何も逆らうことのできない職員をあっちこっちいじくって、大満足では、町民のためにならない。あきれて物が言えない。これはこれでやめます。

それから、3月の予算質疑でもやりましたが、あなたがよく使う検討、精査、こういうものを何回も使っているし、町営住宅建替基本計画においても3年間、検討、検討、最後は検討に何を加えたのだけ、民間の賃貸住宅を借り上げて町営住宅とするというのだけ、そういうことも研究します。検討、検討というのは、何かいろいろその課題について検証し、討議を深めていくと、町営住宅に関して、だれと、いつ、何名で、どのくらい検討したのか。3年間、まる2年以上ありましたね、この回数と、わかれば日時を教えてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 開催の、基本計画に係る検討委員会については、今ご質問の議員が当時責任者ということでのことで進んできた経緯はあるわけです。その後、担当する課長、これは町営住宅を担当する課長、それから財政担当課長とのいろんな話の中で、財政的な状況を踏まえて現在に至っているということでございます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に願います。

○13番 横山英雄議員 この件については、来年度予算を組むとか3月のときには答えましたが、本当にやるのですか、やらないのですか。県へ、課長も大変だと思うよ、やりますからお願いしますと言って228万9,000円の設計委託料、基本設計やったのですから。やらないならやらない……

〔「やったんだよ、220万だよ」と呼ぶ者あり〕

○13番 横山英雄議員 228万9,000円でしょう。ただ引き延ばすだけで、最後になってお金がありませんからできませんというような、あなたが謝るのですか、担当課長が県に謝るのですか、その辺を教えてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町営住宅については、石打の町営住宅の基本計画を出していただいて、その計画に基づいて、さきの議会の中でもお答えをしたかと思いますが、実施する方向で考えていきたいというふうにお答えしたと思います。

これは、当然のことですけれども、あの基本計画の妥当性も十分見きわめた上で、23年度以降にその建設に向けて努力をしていければと、こんなふうに思っておりますので、実施ということで考えていただいて結構でございます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 やるということでもいいのですか。また、あのときはこう言ったのですけれども、気が変わりましたなんてやるのではないでしょうね。私は言いませんとかすぐ言うからね。ころころ、ころころ変わるの、だれかが言った猫の目なんていうけれども、今言ったことがすぐ変わってしまう。3町合併の法定協議会のときは3町だと言っていて、突然手を挙げて反対討論だと、そして3町って言ったかなと、いつ変わったと、今変わったと。そういう人だから余り信用できないのです、大丈夫ですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○13番 横山英雄議員 それは、やるということに進むと思って次へいきましょ。

平成21年12月14日の大野議員の一般質問の答弁で、「私はそこへ行くまでの間に、当時の議長、中川議長でしたが、相談に行きました。このことについてどうなのでしょうかとのご相談に伺ったこともあります。しかし、それがかなわなかったということもあります。当時私は議員として、先ほど申し上げた、許すことはできないという思いがありましたから」と大野議員の質問に答えました。私が中川元議長から聞いている話は、平成17年10月26日、朝7時過ぎに電話で、朝早く申しわけないですが、これからお伺いしてもよろしいですかと言って、7時半ごろ金子議員が家へ来ましたと。辞職勧告が出されたので、家族や支持者からどうしたのだと言われ、夜も寝られないほどなので相談に来ましたということで、中川元議長は、「提出者である松島議員と私を入れていただいて、話し合いをしていただけないでしょうか」とお願いしたら、金子議員は「弁護士に相談してみます」と言って帰ったと、これが金子議員と中川元議長の話し合いの内容です。

中川元議長は、取り下げるということを期待しておりましたと。次の日に、北児童館改築起工式に出席し、その後寿荘の文化祭に行ったとき、松島議員から「金子議員に告訴された」と言われて初めて知ったと、朝新聞を読まなかったと。では、家へ来たのは何だったのだと、初めから告訴するのだと言いに来たのかと、相当憤慨をしておりました。本人がいないときですからね、ここに。議員でいればふざけるなど、すぐに言ったでしょうが、それで私は議長に、中川元議長を呼んで話を聞いてくれと。小倉議員と一緒に行きましたら、あんた方は何が目的だと、けつとばされたのだ

よね。あんたつぶしたのだよ、真実をねじ曲げて、何が目的なのだ、私は話を聞いてくれと言っただけなのだよ。一方的にぶつぶしたのだな、だから辞職勧告が出されるのだよ。不信任か。中川さんは相当憤慨していたよ。このことは答えは要りませんから。

休憩をとってください。あと42分だから、1回休みましょう。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 1時48分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時00分 再開〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 3月の定例会についてちょっと質問をします。

初日に、補正予算が約3,000万円近く余りましたよと、そして次の日には足らなくなったと。それも、課長を立たせておいて、何度も単純な計算ミスにより足らなくなりましたと。12カ月を11カ月で計算して、足らなくなりました。単純な計算ミス、3,000万円の。そんな簡単なことで片づけようとした。先ほども言ったように、部下が間違いを起こしたのであれば、自分の責任ですよ。部下には何らかの、異動か何かによって責任をとらせた。そして、足らなくなってしまったので、議決してしまったから、今会期中にはできないから29日に臨時会を開いてくれと。だからそのときに、単純な計算ミスによって議員が招集されて、臨時会を何で開かなくてはならないのだと言いました、私は。

それから単純な計算ミスという話はなくなったのですが、今度は18日の日には課の設置条例が否決になったにもかかわらず、それにかかわる予算が計上してある。そのときも、私も言いましたが、議員のほうから何人もの方が、否決になっているものは差し替えて、削除をして、再議をお願いしますと、修正して再議をお願いしますというのが筋だろうと、何度も言いましたね。それをしまいには、議員が否決したのだから、議員が修正案を出してやればいい、そんなことを言いましたね。議員も怒ったよね。暫時休憩をして、今度は撤回しますと来た。3月の定例会は何だったのですか。

初日は、2月15日の全協の日に、教育委員はこの方をお願いしますと名前まで発表して、そして副町長については、まだ返事をいただけていないので、まだ名前が出せないのです。26日の全協で3月の定例会に予定の議案書が配られました。いざ9日の初日になったら、1号議案が消えているのです。だれかが、議案というのは議長が開会宣言して初めて議案になるのだなんて何回も突っ張っていてね。だから、堀井総務課長に取り下げたものを、何を取り下げたのだから読んでみってくれと言いました、私は。1回読んでわからなかったの、もう一回読んでくれと。そして、初めて議案なのだ、議案取り下げ、それを受けたのは議長です。それで、9日は先に進まなかったのです。

本来ならば4時か5時前に終わるものが、8時過ぎになっても1日の予定の半分も進まなかったね。次の日までかかったのですよ、1日目の予定が次の日の午後までです。このことについて、町長は何か責任をとる気があるのですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、予算については昨日も同様の趣旨のご質疑があったかというふうに思っておりますが、予算執行に当たっては3月29日に議決をいただきました。それを22年度事業として粛々と実施することによって、その任に当たっていきたいというようにお答えしたかと思えます。

さて、当初の国民健康保険の特別会計の補正予算で、実は減額ということの議決をいただきました。しかし、その後予算を配当する中で、職員のほうでその3,000万円についての積算の誤りを発見したということでございました。したがって、3月中の定例会については一事不再議という原則に基づいて、再び議決を、審議をしていただくことは不可能だということで、実は3月29日にその内容について可決をいただいたという経緯でもございます。

さて、教育委員の関係も出ましたが、これについては今議員が言われますように2月のときにいろいろ議員の皆さんにご審議をお願い、全員協議会の中でご審議をいただいて、ぜひご同意をいただくべくお願いをしまいましたが、結果として私が都合により取り下げをしたということは、そのとおりであります。したがって、議員も大変心配をしていただいておりますのかなというふうに思います。早急に調整した中で、またご審議をいただくように機会をとっていきたく、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 何を言っても感じないような、聞くのがばからしくなってくる。きのうも遠藤議員が言いましたけれども、あなたは地公法違反をしたのだよと。ただし、罰則はないのだと。

3月29日に可決したからいいのではないのです、冗談ではないよ。何で29日に議会を招集してやらなくてはならないのだよ、その反省がない。まずは謝罪する気がないから、だから間違っただ、職員だって。前にも言ったことあるかもしれないけれども、おやじが一生懸命謝っていけば、その背中を見ていけば、子供はあんな思いを親にさせたくない、間違いのないように、二度とあのような姿は見たくない、そういうことで考えるのではないですか。あなたが謝罪もろくにしないから、職員にだってそんなに響かないのだ。この公約と全然違う、一つでもこれに近づくように努力をやってみてください。あきれて聞くのが嫌になってしまった。

ほかに移ります。入札についてちょっと……

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○13番 横山英雄議員 私は発言を求めていない、答弁を求めていない。

○相場一夫議長 続けてください。

○13番 横山英雄議員 これは私に与えられた時間だよ。

入札についてどのような方法をとっているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

〔堀井 隆総務課長登壇〕

○堀井 隆総務課長 お答え申し上げます。

入札の考え方と申しますか、入札業者の決定につきましては、建設工事の種類及び設計の金額により指名対象とする業者のランク分けをしております。土木工事及び舗装工事については、Aランクを3,000万以上、Bランクを1,000万以上3,000万未満、Cランクを1,000万未満です。建築工事につきましては、Aランクを7,000万以上、Bランクを1,000万以上7,000万未満、Cランクを1,000万未満です。その他、電気、管工事については、Aランク1,000万以上、Bランク1,000万未満となっております。

なお、土木、建設関係についてはAランクは10社以上、Bランクは7社以上、Cランクは5社以上。電気、管工事につきましてはAランクを7社以上、Bランクを5社以上という基準に基づいて選定をしております。

基本的には、これらの金額によるランク分けによって、対象となる業者の中から入札審査会におきまして指名業者を選定するには、業者の経営信用状況、当該工事に対する地理的な条件、手持ち工事の状況、技術的適正、安全管理などの状況を総合的に判断して決めさせていただいております。

以上です。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 100%情報公開ということですから、間違いのないようにできると思うのですが、特にこういう不況のとき、仕事がないときには、ややもすると危ないような会社も飛び込んでくるかもしれません。しっかり下調べをして、できるものは地元の業者に、最低でも群馬県内に本社のある。そういうことで、何かのときには地元の業者は、雪が降れば雪かきをする、草刈りはしてくれると。いろんな町に、今度は祭りがある、花火をやるそうですが、また寄附もいただかなくてはならない。適正な価格で仕事はいい仕事をしてもらって、そしてきっちり税金を納めてもらう。こういうときこそ、地元の業者を育成しなければならないかなと思います。

よそで稼いできて町へ税金落とせというのは、なかなか虫のいい話です。そしてまた、先ほど言いましたように倒産間近の会社というのは、競争ですから安ければとれると思って、1万円の仕事を3,000円でやりますと受けて、その3,000円いただいてどろんとする。また、倒産する会社もあるかもしれません。そういうことのないように、適正な価格、ある程度上限下限を設けたほうがいいと思いますが、どうですか。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

〔堀井 隆総務課長登壇〕

○堀井 隆総務課長 お答えいたします。

入札制度は、適正な競争により予算の無駄のない安価な契約をすることによって成り立っております。議会におきましても、不況の時代に町内の業者を優先と申しますか、保護することの意向も受けております。町内業者の方には、できるだけ入札に参加していただきたいという基本的な考えを持っていますけれども、町内業者だけで、例えばAクラスの工事をやっていただくといったときに、土木工事ではAクラスが1社、建設工事でも1社、管工事では2社というふうに制限されております。そういったことで、町外の業者にまだまだ頼らなければならない部分もあることは事実でございます。

それと、入札の下限の価格につきましては、今後検討していきたいというふうに思っております。入札審査会もございますので、その場所で検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 先ほどちょっと言い忘れたのですが、町内業者と言いましたが、町内から、私は最後に県内と入れてあると思うのですが、それはいいです。町内、館林、その次太田、だんだん群馬県に本社がある会社はどうですかと言ったつもりだったのですが、ぜひそういうことでお願いしたいと思っております。

それから、今鞍掛の工業団地、鞍掛第三工業団地、町道16—13号線、団地から、354号が間もなく完成しますけれども、そこへ結ぶ道路。どうですかね、あれは一日も早く結ばないと。そして、第三工業団地の中にはカンダコーポレーションが22年10月31日、それとオールユニールが22年8月31日、これが操業予定ということで、急ピッチで工事が進んでおります。そしてまた、千代田町ではジョイフル本田が12月ごろですか、完成するのではないかなと。あんなった場合に、今ここの旧の役場の東の道路、県道、主要地方道足利邑楽行田線、これが大変な混雑を来すのではないかと、今地元の人たちは大変心配をしております。

先祖伝来の受け継いだ土地を提供し、町が豊かになるように工業団地造成に協力してやっていただいた方たちの思い、やっとほとんどあきがなく、ふさがりようになってきました。初めは、物流は入らなかったわけですが、この不況の折、売れないということで物流が許可になったわけです。企業局は、あれで相当お金がもうかるわけで、今はもうからないかわかりませんが、企業局の責任として、あの団地内にある道路が、これがつながるものと思ってあそこに入った会社がほとんどだと思う。町の責任においても、あなたがいつも言っているトップセールスですか、町長選挙で各戸を回って歩いたあの熱意をもう一度思い出して、毎日のようにしつこいほど、県企業局へ行って、何とかしろと、おまえたちの責任ではないかと。すぐですから、ことしじゅうに何とかめどをつけないと大変な騒ぎになるのではないかなと思っておりますが、どう考えますか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、鞍掛第三工業団地から広域幹線道路354号線につなぐ道路のご質問からお答えいたしますが、現在この新設道路については、予算等を計上した中で、測量等を地権者の皆さんにご相談申し上げて進めているところであります。

この道路の今年度中の完成ということのお話ですが、実はこの道路については、やはり予算的な状況もあります。1つには国、県からの補助金ということ、依存財源を十分研究する必要もあるだろう。したがって、町の財政負担をより少なくするという考え方から、県に向かってはこの道路についての事業採択に向けて鋭意努力をしているところでございます。したがって、この道路は新堀川がありまして、橋をかけるということもあります。今議員のご質問のように鞍掛の第三工業団地については、ご存じのように27メートルの道路があるわけですが、その幅員ということは確保はできないかもしれませんが、今計画の中では17メートル道路という形での計画に基づいて鋭意努力をしているところでございます。

それから、2つ目の足利邑楽行田線の県道についてでございますが、結論から申し上げますと、今この道路についての歩道ということ、あるいは幅員の問題等を含めて県のほうで調査をさせていただいております。実は、この22年度の事業の中で予算をいただきまして、県のほうで実施をさせていただいているところでありますが、議員もご承知かと思いますが、千代田町のほうに大型ショッピングセンターの誘致も決定をされたようであります。この道路は、都市計画の決定道路ということで、実は本中野駅の西側、踏切があるわけですが、これがこの踏切をまたいで高架橋でという計画のようではありますが、しかしこれについてのよしあしも含めたその調査の中で検討が行われるものと思っております。

したがって、都市計画をそのような形で決定はしてあるわけですが、その変更ということも当然伴うわけありますので、ことしじゅうにということはやっと無理かなと。ご存じのように、足利から122号線をまたぎまして多々良川にかかります堀田橋、この橋のところまでは改良が進んできたわけあります。それから南の邑楽町の中心市街地については現状のような状況であります。ぜひこの交通量の煩雑さというのは、私自身も十分承知をいたしておりますし、昨日の3号線の改良ということのご質問もありましたが、これらも含めた中でこれから取り組んでいかなければならないのかなというふうに思っております。

結論を申し上げますと、県のほうには、ぜひ早急に行えるように実施に向けてお願いしたいということで、再三にわたりまして出向していることをご報告させていただきます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 県企業局が工業団地やったことで、当然混雑するのはわかりきっている。一日も早く、それはしつこいほど、相手が眠れないほど追いかけてお願いすると、そのくらいのあれでいかないと。よく昔言われたことがあります。うるさく顔にブンブンとたかたり飛んで回る

ハエはたたくと、そこで静かにとまっているハエはたたきませんよという人がいました。何度も何度も来ると何とかしなくてはならないと、そっちのほうで静かではわからないのだよ、早くやっってくださいよと遠くのほうで静かに言っているのは、採用しない。そういうのがある。予算が1人分しかなければ、10人の中で一番うるさく毎日のようにつきまとうと、しようがない、こっちにやるかとなるのではないかな。邑楽郡の町長の中でも、今までは板倉の町長がいたり、大泉の長谷川町長がいたり、みんな大ベテランの大先輩の町長がいたのですが、今郡で2番目に古いのではないですか、明和に次いでですよね。邑楽町はどうしてくれるのだと、邑楽町は協力したのではないかと、ぜひそれをやってもらいたい。

あなたは、トップセールス、陣頭指揮と、口だけではだめですからね。あとは、滞納整理は私が先頭に立ってやりますと、いろいろ約束をしてあります。ぜひナマズみたいに口ばかりではなく、本当にそれを守れるようにやってください。

それと、みんな自分の所管になってしまうのだけれども、19号はどうなっていますか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現在施工しております19号の進捗状況のお尋ねですが、きのうも実はお二人の議員さんからそのようなご質問があったわけでありますが、残念ながら現時点では同意をいただけない地権者の方がおりまして、鋭意この地権者の方に協力をいただくべくお願いを、交渉をしているところであります。大変な費用を投資しているということもありますので、土木課長と相まって、この地権者の方については一日も早く協力をいただけるように努力をしているということでございまして、残念ながら21年度の事業については実施をしていなかったと、そういうことでお答えをいたします。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 これも施政方針の中では、20年は町道幹線19号線の継続事業を地権者や関係者の理解と協力をいただきながら推進しますと、21年も前年と同じと、22年度は昨年度から事業休止中の町道幹線19号の事業再開に向けて努力しますと施政方針にうたっています。

私は、直接聞いた話ではありませんが、町長選で応援していただくために、私が町長になれば19号線は1年で開通されると言ったとか言わないとか。

〔「言ったって、7区の集会所で」と呼ぶ者あり〕

○13番 横山英雄議員 7区の集会所と言っている人がいますからね。それがもう2年半、残り1年半です。何とかしなくてはならない。これもまた口ばかりで、だましになってしまうね。退職金も前倒しでやりましたなんて格好のいいこと言って、前倒しではない、議員にやってもらったのだよね。あなたのその公約のおかげで、前の教育長が給料を半分にされている。おれの給料半分にしやがって、あのやつら絶対許さないなんて、それを提出した議員が大変恨まれまして、私もおかげで

巻き込まれて、今は口も聞いておりませんよ、あなたのおかげです。

これもう一度聞きますけれども、19号線はどうするのですか、あと1年半。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 19号線の事業進捗については、実施をいたします。1年半という年数の期限がありますが、これについてはちょっとお約束はできませんが、一日も早く開通できるように地権者の方に交渉して、その供用開始を進めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 前に小倉議員が、静岡空港でしたか、滑走路が完成していざというときに、木があった。あの木は、あなたが知事をやめれば切るよと言って、知事がやめたと。そして、木を切っていただいて空港が開港になったと、そういう話をしましたよね、覚えているでしょう。あなたにその覚悟はありますか。

もう一度お願いします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 その知事さんが、その地権者の方とどのような約束をされたのか、どのような経過でそうなったか私は存じませんので、申し上げられません。

19号線の呂楽町の道路整備の関係については、私の前の町長、その前から、平成14年からこの事業が都市計画決定道路として事業開始をされたということを踏まえて、担当から伺っているわけですが、前の町長さんはどのような対応をとってきたか私はわかりませんが、昨日も申し上げましたが、私が平成19年12月19日に就任をさせていただいたその日から、その地権者の方には鋭意協力をいただくべく、回数は具体的に申し上げられませんが、20回近くお邪魔をして協力を要請してきたと。土木課長がそれらについては詳細を承知しておりますので、その関係する方に早期の同意をいただくように協力をお願いして、私の責任で当たっていききたいと、そのように思っております。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 始めたのは私ではないと、今はあなたが町長なのです。前の人にやれと言うのなら、あなたがかわるかい、やめて。幾ら行っただって、誠意が伝わらなくてはだめなのだよ、そうではないですか。お願いに来たのですよと、ふらふらとアポもとらないでぽこっと行って、お願いに来たのです、はい1回。そういうのではないでしょう。本当に真剣にお願いすると、そうすれば相手に伝わるのではないですか、土下座でもして。まずは。隣町にジョイフル本田が来ますが、あのジョイフルの社長が大谷町長にほれ込んだ。それは、大谷町長は千代田町を助けてくれと、今千代田町はこういう状態なのだと、町として、私の責任として法に触れない限りどんな協力でも惜

しまずやりますと、その言葉にジョイフルの社長はほれて、千代田町に進出を決めたそうです。

口先だけでお願いしますと、行ったのです。また、来たのです、またお願いに来ましたと。それでは相手に伝わらないと思いますよ。口は下手でもいいのです、心が相手に伝われば。あなたを信じて一生懸命応援してくれた……

○相場一夫議長 残り時間があと1分です。

○13番 横山英雄議員 有権者の方々は、がっかりしているのではないですか。金子は2年半何をやってきたのだと。トップセールスをやると言ったからには、命がけてこれから取り組んでみてください。

終わります。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 2時42分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 3時00分 再開〕

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○相場一夫議長 6番、小沢泰治議員。

〔6番 小沢泰治議員登壇〕

○6番 小沢泰治議員 議席番号6番、小沢泰治です。議員の責務により、一般質問通告どおり質問させていただきます。

まず、1番目、最初は、スピード感ある行政運営と町のトップセールスマンを自負する金子正一町長の行政運営についてということで質問させていただきます。初当選されて以来2年6カ月がたったわけですが、何事でもそうかと思いますが、農業にしても工業にしても、製造業、サービス業にしても、やはり陣容が整っていなければよい仕事はできない。1人より2人、2人いれば3人の仕事ができる、3人いれば5人の仕事ができるということで、邑楽町においては現在、課長以下職員についてはしっかり責務を果たしていると思うのですが、町の三役、町長は新しく決まったが、副町長、教育長がまだ決まっていない。副町長については、町長が交代してすぐに辞任し、教育長は去年の9月末で任期満了となって、今は空席です。

まず、副町長について伺いたいのですが、副町長がいれば、町長のおっしゃるトップセールスも何の障害もなくできると思うわけですが、なぜ副町長の選任、選出ができないか。平成19年11月30日に、先ほどもお話ありましたが、議員の職を町長選に立候補したために失職を選んだ、その責任も私は重大だと思います。辞職をして、そして選挙運動をする期間をとれば、議員の補欠選挙も一緒にできたわけです。それを選ばなかった。そして、選挙におかれては、先ほどもお話ありましたが、

退職金0円、絶対に実行することができない、ましてや隣の町長がそういうことで謝罪もしている、十分承知していたことだと思います。

そんな中で、先ほどの群馬県知事の大澤正明氏まで例に出しまして、それをやってのけた。また、それ以前の問題として係争中、議会内で議員が議員を訴えるということが許されない行為であるその行為をやってのけて、有権者の前では、もう解決するのだよとかおっしゃったということですが、現実に係争中、裁判中でした。訴えた人、訴えられた人、また訴えられた周りの皆さんにおいては、生涯忘れない、過去にも私お話ししましたが、末代まで忘れられない事件だと思います、やってはならない裁判であるわけですから。そんな中で、現在に至っても町長の右腕となるべく副町長がいない。原因は何であるか、その辺をまずお聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 原因についてはいろいろな事情があるわけでありまして、提案する、あるいは提案をしようとする方が、そこは議会の同意が必要ということになりますから、そういった環境整備も大変これが一番重要なことだというふうに思っておりますので、今現在副町長については不在であります、議員のお許しをいただければ、できるだけ早い時期に提案をできればと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 副町長は、町長がかわりまして、すぐに辞任しているわけです。2年6カ月たって、できるだけ早くなんてことないでしょう。現実に、議会に提案も何もされてきていない、一度もない。3月の予算の議会においてもお話ししましたが、それから3カ月たっております。なぜ議会に提案してこられないか、お聞きします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいまお答えしたとおりなのですが、ぜひ質問される議員におかれましては、提案をした暁にはご同意をいただきますようお願いしたいと思います。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 2年6カ月たったのですよ、一度も議会に出てこないで、よくそんなこと言えますね。副町長がいなかったら大変でしょう。現実に、先ほど予算の問題でミスだとかあったけれども、副町長がいれば細かくその辺に目を通すこともできる。いないから、ああいうことが起きてしまっているわけでしょう。また、いないから、自身トップセールスもできないわけでしょう。いなければ、あらゆる町内の会合に自分が顔を出せるから、ある意味ではいいのかもしれませんが、それは町民の利益にはなりません。

現実に、先ほど各課長さんに質問ありましたが、心の中で何を思っているか、本当に不都

合していると思います。自分も役場の職員として39年間いたわけですから、そういう状態であるときに、課長まで務めたわけですから、現在いらっしゃる課長がどんな不都合を感じているか、その辺、町長の経験からお話してください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 邑楽町2万5,700人の町民の皆さんの行政運営をつかさどっている……

〔「2万7,500」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 2万7,500人です、失礼いたしました。訂正をさせていただきます。2万7,500人の住民の皆さんの責任者として、行財政運営をつかさどっている者として、課長が、その副町長がいないということについての不都合ということではよろしいのでしょうか、それはじかに聞いたことはありませんが、副町長が在籍をしていれば、それは十分機能をすることが多いだろうと思います。しかし、今は残念ながら、先ほど申し上げた状況です。その不都合が生じないように鋭意努力をして、サービス向上に努めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 町長の任期は、どこの町でも4年なのです。4年で、2年半不在にしてしまったのですよ、だれがしたのですか。だれが選出していくべきなのですか、議員が出してくるのですか、その辺どうなのですか。2年半ですよ、あと1年半しか、副町長になったとしても町に貢献できないのですよ、そのことについてお話してください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 補佐をする副町長という職責は、私自身重要なものであるというふうに思っております。したがって、2年半不在ということではあります。先ほども、前の議員からもそのようなご質問がありましたけれども、できるだけ早くそういった状況をつくるように努力をしていきたいというふうに思っております。明和町さんのほうでは、きょう副町長さんが誕生したというお話も伺っておりますので、ぜひそういった状況も見ながら、ご同意を賜ればと思います。

〔「今すぐやれよ」「受ける人がいないんだよ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛にお願いいたします。

小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 どこの町でも村でも、どういう自治体でも、選挙となれば一生懸命皆さんが頑張りを、応援したりするわけですが、現実にその前提となる本人の資質と申しますか、経歴と申しますか、その辺がやはり一般町民の考えから、ものの判断からして誤っている。ゆえに、よく一般に聞くのは、議会は何しているのだという言葉が聞きますけれども、議会ではないのです。行政側が何をしているという状態であるから予算が素直に通らなかつたり、いろいろの案件が否決された

り、そういうことをしているわけです。まず、自分のなさってきた議員生活、そういう中でやはり今回の副町長を選出できない根源があるかと思うのですが、ぜひその根源を、自分の思い当たるところをお話してください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 その原因について、経歴等いろいろありましたけれども、私は私なりに精いっぱい行政運営を行っているつもりでありますし、職員も町民の皆さんのために一生懸命努力をしているだろうというふうに思っております。

これは、私の資質が欠けているようなお話であります。それは私は欠けていれば、欠けたところは謙虚に受けとめて直し、まじめに町民の皆さんのために仕事をやっていく、そういう思いであります。その結果が、7,594人の町民の皆さんの信任を受けて今仕事をさせていただいているわけですので、ぜひ議員におかれても、行政運営に大変堪能のある方でございますので、ご指導をよろしくお願ひしたいと思います。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 議会内であってはならないことを起こしてしまったから、やはりいつになっても穏やかにはならないわけです。大泉町を見ましても、斉藤町長が誕生してすぐに副町長、教育長、新しい方が決まりました。その辺、周りを見ていただいて、やはり自分の町が異常なのだということにぜひ気づいていただきたいと思ひます。結果として、広域の組合いろいろありますけれども、そこに出席しても、やはり胸が張れないのではないかと思います。役場の職員もしかりだと思います。そういうことで、ぜひ頑張っていたいただきたいと思ひます。

そして、教育長の件ですが、この件につきましては、非常に名前の挙がった方については迷惑をかけた。また、3月の議会で、ぜひ早く選出したいのだということでお話を伺いまして3カ月がたつわけですけれども、何かその教育長の件で進捗はありましたでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この教育委員の問題については、私は教育長とは申していないのですが……

〔「ああ、済みません、教育委員」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 教育委員の問題については、早急にお願ひをしてご同意をいただくようにしたいと、このように思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 先ほどは済みません、教育委員です。教育委員の中から教育長が互選されるわけですから、教育委員です。訂正いたします。

そういう中で、3月取り下げになったわけですが、地域バランス等を考えた中でというお話があ

りまして、また議員の皆さんにもいろいろお願いするときもあるかもしれない、お願いしますというお話も出ました。そういうことで、その後どのように進んでいるか、お聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この教育委員の関係については、議会のほうから、私の議員の皆さんへの配慮が足りなかった、それから地域バランス等々のご指摘がありました。そういった点について、議員の皆さんにご相談をさせていただくということを申し上げたかと思えます。その後、議長を通して議員の皆さんにいろいろお願いをしたところでもありますが、その後の経過については特にお聞きしておりませんので、どのような形になっているか、早急にその辺のところを知りたいというのが私の気持ちであります。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 教育委員は、議員が選ぶわけではないのです。議員は、ただ円満に教育行政が実行できるようにするにはどうしたらいいか、政治が教育に絡んではいけないことですから、そういうのを考えた中でどうあるべきかなのです。あくまでも町長が選任してくるわけですから、ただその中であって、3月には取り消しですか、撤回された、議案にのせなかった。全員協議会で説明はあったけれども、議題として上らなかったわけですが、そういういろいろの問題が起きたらいけない、現実を起こしてしまったわけですから大変なのですが、起きないように根回しといたしますか、その辺をして、とにかく教育には、社会教育も入りますけれども、教育には政治が入り込まないと、そういう体制をつくるために、ぜひ町長努力していただきたいと思えます。

現実には、教育委員が1人欠けている、教育長がないということは、課長にも負担がかかるし、実際学校、社会教育、行事に当たってトップが出られない、そういう事態に今なっているわけですから、それをどのように解消すればいいか、早く。あと1年半なのです。もう一度、教育長の選任についてしっかりしたお話をお願いします。教育委員の選任についてです。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 繰り返しになりますが、早急に提案申し上げるように努力をいたします。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 邑楽町には小学校が4校あるわけですから、やっぱり通学区、小学校区のバランスをぜひ念頭に置いて提案していただければと思います。

あと1年6カ月ですが、町長の、この選任できなかった責任は非常に重いと思いますが、町民にとってマイナスであるということから、きょうは傍聴の方も大勢見えておりますから、原因があるから選任できないわけで、その辺責任は感じておりますか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 教育委員の関係については、昨年の9月いっぱいでの前の教育長さんが退任をされて、前のご質問にもありましたけれども、早急に、一日も早くということがありました。それらを当然考慮したつもりではあります。その選任に当たっては、教育行政に熱意のある方ということの私なりの思いがあったものですから、3月のということで提案をすべく努力をしてきたということがあったわけです。しかし、事情によって取り下げをしたという経緯もあるわけですから、これについては私の気配りといいますか、そういうことが足らなかったというご指摘も受けましたので、そういう点を十分受けとめて、そして早急に提案する方については、ぜひ残された期間が1年半という話もありますが、選任をしていただくことによってその責を果たしていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 これから選任されて責任を果たすということですが、副町長、教育長が不在であるわけですが、町長自身の提案もされていないわけですから、そういうことで町長自身の責任があると思っているか、感じているというところとちょっとやわらか過ぎるので、責任を……重大な責任があると思うのです、2年半いないわけですから、副町長については、その責任についてどう思っているかお聞きしたい、どう判断するか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 副町長、教育委員の選任、人事案件については、町長の任命、そして議会の同意ということであります。その選任の時期については、それぞれのそのときの事情ということがあるわけですから、選任をされたときが最高のときだというふうに思っておりますので、ぜひ議員には、繰り返しになりますが、提案をいたしました人事案件、特に教育委員の問題については、よろしくご同意をいただきますようお願いをしたいと思います。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 ぜひ地域バランスをとった中での任命、提案をお願いしたいと思います。

続いて、邑楽町の人口構成からしまして、非常に高齢化をしているし、人口減少の町になってきております。そんな中で、近隣市町との交流、また大きな合併、そういうことで財政が悪化している邑楽町を、何とか各地域ごとの住民が心豊かに、また邑楽町町民として、住民として充実した生活ができる、そのようにするために、今のこの人口構成、将来にわたって考えたときに、さきの質問で町営住宅をつくと70年だというお話出ましたが、70年ということ考えた場合に、多分普通のまま、このままでいくと邑楽町の人口は半分になると思います。1万4,000人か、それ以下になると思います。そんな中で、スピード感を持って対応するというセールストークといいますか、先ほどのピラではないですけども、なった町長ですから、今何を考えて、どう行動をとるべきか。

無駄遣いを省くにも、やはり限度があります。そんな中で将来を考えたときに、今の町長、首長が何をすべきか、お聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町民の皆さんが安全で安心な、そして少しでも快適な生活が送れるような行財政運営を心がけていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 安全で安心なんて、そんなの当たり前なのです。町の財政が逼迫しているわけですから、それを打開するために何か考えなければならないと思います。効率化だとか、あるいは職員の削減だとか、給料、報酬の減額だとか。大変になると思いますよ、毎年毎年減っていくのですから。そんな中で、今お話ししたようなことを実行しなくても、邑楽町が住みよい町で、活気あふれる町になるためにはどうしたらいいか、町長として。副町長いないですから大変ですけども、何をやったら邑楽町が活気ある町になるか。先ほど千代田町の大型ショッピングセンターの話も出ましたが、邑楽町は立地条件は、大谷町長が話ししますけれども、非常にすぐれているのだと。また、千代田の議員がお話ししますけれども、邑楽町はうらやましいというお話をいつも広域圏の会議に行きますと聞きます。なぜ邑楽町が豊かになるべく手段をとらないか、どのようにしたら豊かになれるか、税収がふえるか、そこをお聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 事業を行う場合は、当然のことながら予算の裏づけが必要であります。そういう点では、大先輩の皆さんが、もちろんそれぞれの地権者の皆さんの協力をいただいた中で工業団地等の造成も行われ、そしてその工業団地への工場の立地も大変進んできております。鞍掛の第三工業団地、残すところあと何カ所かということになっております。そういうことを考えてみていきますと、やはり税収ということの確保が一番だろうということで、先輩の皆さん方が力を注いできたのだろうと思います。

そこで、そういった税をいかに大事に使うかということは、私が申し上げるまでもなく、先ほども職員の削減というようなお話がありましたが、それは行政改革のプランの一つであって、それも一つの方法ですし、加えてやはり議員の皆さん方のご協力のもとで、いろいろ削減ということも考えていかざるを得ないのかというふうに思っておりますが、たまたま他の町長さんから邑楽町は大変素晴らしいいい町だと、私も町民の方から大変いろいろなよいニュースを伺っております。邑楽町は、子育てのしやすい、本当に子供の児童福祉について力を入れていただいている方からそういった反響、お話をさせていただきます。そういうことは、とりもなおさずそういった税ということが基本にあるわけでありますので、これは少子化だけの問題ではありません。児童福

社だけの問題ではなく、高齢者の問題についても力を入れていくということが、これからの町づくりに大変必要であろうかなと。まして総合計画、5カ年の後期計画が今策定しているところでもありますので、それらについても財政的な裏づけを十分しんしゃくした中で計画を練っていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 財政、今の町税収入、そういうものだけを考えてやっているから役場の職員39年なのです。そうでなくて、みずから収入を得るために何をしたらいいか。与えられたものだけでやるとすれば、高齢化していれば実際の第一線で働く方が少なくなっていくわけですから、年金生活の皆さんから税金をいっぱいいただけますか。現実に所得がなければ、現役が少なくなって高齢者、私も60過ぎましたけれども、そういう人間がふえているわけですから、何を町としてなすべきかだと思います。

現実に、広幹道もやっと、大澤知事が誕生して東毛にいろいろ予算措置も多くして、貫通する時期が来ております。また、122号との接続も同時に実行されると思うのですが、そういうのを読んだときに、今町長が町長になったときに手を打ち始めなかったら、完成するのには3年、5年かかるのです。そうすると、ほかの地域に、ほかの市町に立地されてしまった、あるいはほかの遠いところに、交通の利便性のいいところに立地されてしまったら、邑楽町に立地しなくてもいいのです。ですから、町長のおっしゃるスピード感のある、それが欠けています。都市計画の見直し、市街化区域の見直し、そういうものを考えて、ぜひ早急に実行していただきたい。

オールユニール、先ほど話出ましたけれども、やはり354のずっと板倉のほうまでバイパスを走ってみればわかりますけれども、倉庫がいっぱいできておりますよね、オールユニールの。そういうことで、都市計画線引き見直し、市街化区域をふやす、またその交通網、それを見据えた中での都市計画の変更、実行をぜひお願いしたいと思います。

これは、354を例にとれば、354沿線に接している農地の地権者、354が一番邑楽町でかなめになると思うのですが、地権者は相当数いらっしゃると思います。ですから、市街化区域になることによって、税負担は各地主さんふえますけれども、今の米価、1万8,000円で買うとかいろいろ話ありましたけれども、米価あるいは麦価、あるいは野菜類の、穀類もですけれども、輸入によって価格を引き下げなければならない、そういう状態になっているわけですから、農家の方も多分相当数の方が協力してくださると思います。そして、もしどうしても農家をしたい、農業をしたいということであれば、換地処分といいますか、新たな場所を提供するような格好でお話を積極的に町長がトップセールスですれば、早く実行できると思います。そうすることによって、先ほど予算の範囲内でどうのこうの、マイナス思考でなくて、プラスに邑楽町を発展させるように持っていき。そういうことあると思うのですが、都市計画の見直し等、即考える気持ちがあるかどうか、お聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 邑楽町は昭和52年に、都市計画の中での市街化区域、そして調整区域という線引きが52年の8月末だったのでしょうか、ちょっと日が間違ったら失礼なのですが、線引きをされました。その後、町の土地利用については都市計画のマスタープランということで、この地域についてはこういった土地利用、こういった土地利用ということの計画がなされております。それに基づいて行っているところでもあります。

さて、具体的に354号線沿線を都市計画の線引きを見直してやる考えがあるかということについては、現時点では考えておりません。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 その考えで邑楽町がよくなるでしょうか、置いていかれてしまうと思うのですけれども。現実には、東京首都圏に近い高速道路も走っている館林インターチェンジと太田桐生インターがある。その中でそういうことを考えると、邑楽町は館林インターにしても太田桐生インターにしても、時間的には一番かかる場所なのです、西から来ても東から来ても。ですから、早くスピード感を持っていろいろに対応しなかったら、邑楽町の将来はやはり全体の外れになってしまうと思います。そんな中で、固定資産税についてお聞きしたいのですが、これは町長ではわからない、税務課長、普通に考え、普通に一般的に見て、農地と宅地と大体何倍ぐらい、農地の何倍ぐらい宅地は、1坪当たりでも1反でもいいですけれども、税収が上がりますか。

〔「大体でいいですよ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 立沢税務課長。

〔立沢 茂税務課長登壇〕

○立沢 茂税務課長 大変遅くなりまして申しわけございません。

大まかな数字になりますけれども、倍数でいいますと150倍ぐらいになるのかなと、準農地の場合と、それから一般的な宅地というところの比較でございます。よろしいでしょうか。

以上でございます。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 今150倍というお話ありましたが、150倍ということはすごいのです。ましてや、邑楽町は354に接する部分が非常に長いです。そんな中で、ぜひ町長に早く腰を上げていただいて、その辺を考えていただければと思います。

現実には、354沿線でも家が建たないというわけではないのです、建つのです。しかしながら、農業関係、市街化調整区域でとれた作物をそこで売るための小さなお店ならば、あそこの端につくることのできるのです。だけれども、それ以外がほとんどできないから、邑楽町のすばらしい敷地、土地があるのに有効活用ができないわけなのです。

そして、先ほども話ししましたが、この沿線に接している農地の地権者は非常に多いと思いますので、ぜひ邑楽町がこの東毛の中心になるべく、早く実行していただければと思います。町長、今の150倍という税務課長からの話を聞いて先ほどの考えが変わると思うのですが、どのように考えますか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど税務課長のほうからその比較が示されましたけれども、農地と宅地ということのお話がありましたが、そういう点を考えればそれぐらいの、定かではありませんけれども、倍率にはなるのかなと。これは、相続税法あるいは贈与税法等の評価基準ということもありますけれども、固定資産でいきますと、その評価額すべて、イコールが課税標準額ということではありませんから、税負担ということになるとまたちょっと変わりますけれども、評価額ということでいけば、そういうことがあるのかなと。

さて、それだけの開きがあるのにどう考えるかというお尋ねですが、私は先ほど申し上げましたけれども、52年の8月の線引き以来、市街化調整区域ということのお話をさせていただきました。354号線については、そういった形で調整区域ということになっておりますが、ただ沿道サービス業としての開発行為というのは認められているのかなというふうに、十分知識はございませんので、もし誤っていたら取り消しをさせていただきますが、沿道サービスということに限っては、その許可がおりるのではないかと。議員のその地域でとれた農産物をそこで販売するということは、いみじくもそういうことに当たるのかなというふうに思うわけですが、しかしだからといって、そのところを都市計画法に基づいた市街化区域ということについては、やはり上位計画がありますから、都市計画法という法律がありますから、それをクリアしなければ、当然のことながら議員が求めているということにはならないだろうと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 沿道サービス業、そういうのは都市開発行為をすればなるのですけれども、その業種が幾つあります、対象になる業種が。現実にあの沿線を埋め尽くすほどそれではできませんか。だとしたら、税金はふえないのです。現実には、農家の方も接道している土地が市街化区域になって、あらゆる業種の方に利用していただけるようになれば、農業収入ではないですけども、農家の不動産収入とすれば非常に多くなる。現実には、今邑楽中の裏の信号から354に斜めに抜ける道、セーブオンがあるのですが、あそこ駐車場を今広げております。ああいうことで宅地に、あるいは雑種地になることによって、税金は上がるわ、地主、そこに土地を持っている方はそこだけではないわけですから、収入が1反で10倍、20倍になって、なおかつほかで、今土地を売る方もいっぱいいらっしゃる。また、貸してくれる方もいっぱいいらっしゃいます。ですから、そういう中で邑楽町の農業が、あるいはほかの産業が活性化をするのには、とにかく早い時期にやらなければ、よそ

に置いていかれる。その辺を痛切に、町長感じていただきたいと思います。

52年の線引きがあるからだめだではだめなのです。それは、与えられたものをただやっているだけなのですよ、そうではないですか。例えば千代田町が住宅開発をしたときに、千代田町でしたらきっと失敗すると私は思っていたのです。しますよ、板倉だってそうです、交通網がちゃんとなっていないわけですから。そういう中で、町長の努力でジョイフル本田が進出する、本当によかったと思います。そんな中、邑楽町は非常に利便性が高い場所にありますから、町長、52年に線引きされたからそのままなのですということではなくて、邑楽町の経営者のトップですから、ぜひトップセールス、そういう意味で実行していただければと思います。今の話、私がしたのですが、考え変わりましたか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員のご意見として承っております。

考え方は、その都市計画法ということの条件がクリアできればということ为先ほど申し上げましたが、そういうことがありますので、変わってはおりません。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 都市計画決定がされているから、そのままとそのままなのです。邑楽町の税収がだんだん、だんだん減っていってしまうのです。なぜかという、人口構成からしてそういう形になっているわけですから。だから、それを打破するためにどうするかなのです。決まっているのはそのままだから、そのままいくのですよでは、何の魅力もない町になってしまうと思います。ましてや館林、太田、市が2つあって、その中間にある邑楽町ですから。ぜひその辺を考えた中で、町として、町長としてどう考えるか、いろいろ法律があるからどうのこうのではないのです。町長の実際の思い、トップセールスをする上でどうですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員は、固定資産税ということに固執しているようですが、将来的にどういった推計になるかわかりませんが、議員が指摘されるように人口が減少していくということになりますと、これを市街化区域をつくってどうかということになると、これはその人口の構成だけを考えても不可能ではないかというふうに思っていますけれども。と申しますのは、都市計画法の中でも恐らくいろいろな基準があると思います。基準があるわけです。人口密度の問題もあります。今邑楽町は、市街化区域として決定をされた地域が、果たして市街化として形成されているかということも、これも一つあるでしょう。そして、この形成がクリアできましたということになれば、その隣接する地域、にじみということか、隣接する地域を拡大するということもありましょうし、354号線のこの部分について、市街化だとして固定資産税を上げるために設定をするということ、条件があるわ

けです。1つには、その地域が一体となって20ヘク以上の用地が確保され、その地域が5年なり何年かのうちに開発をされなければ、そういうことが認められないという条件があるわけです。ですから、議員が指摘しているように将来人口が減少するというで考えていけば、私はなお不可能になってくるのではないかと、こんなふうに思っております。

〔「暫時休憩」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 休憩しますか。

〔「もうちょい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 もうちょっとですか。

小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 人口減少、住宅団地、354の沿線は住宅団地ができるわけではないからね、あらゆるものに使えるような場所をつくるということですから。それで、税金、税金と町長は言いますけれども、税金……

〔「固定資産税と言ったのです」と呼ぶ者あり〕

○6番 小沢泰治議員 だから、固定資産税と言うけれども、先ほど言ったでしょう、10倍、20倍も農家の所得も上がるのです。それで、なおかつ全体をつぶしてしまうわけではないのです。だから、前向きに考えてくださいということです。そういうことで、沿道についてはお話し終わります。

それで、次に町の事業、あるいは道路整備、先ほどの財源確保の関係もあるのですが、トップセールス、町長が何を考えているかということですが、先ほど大野議員のほうからリフォームの町の対応ということでお話ありましたけれども、私は商工会の理事会がありまして、もう何回も、経済課ではなくて何だっけ、話が行っているかどうかわからない、商工会から来ました、事務局から来ました、来ていない。

〔「暫時休憩」と呼ぶ者あり〕

○6番 小沢泰治議員 リフォーム関係のことで。

〔「暫時休憩して調べろ」と呼ぶ者あり〕

○6番 小沢泰治議員 では、そういうことで、来ていないとすればそれでいいです。

先ほどの大野議員さんと同じで、ぜひそのリフォームを積極的に進める施策を打っていただきたいということです。なぜかと申しますと、子供は減っていますし、経済は低迷していますし、新しく住宅を何千万で取得するということは非常に困難な時代、年齢的なもので来ている、差しかかっていると思います。ですから、リフォームにぜひ力を入れていただきたい。

商工会において、今鋭意努力しているわけですから、その件を町としても取り上げて、補助をするというのは私はわずかでいいと思います、財政が本当に逼迫しているわけですから。ただ、こういうことで町の税金もふえる、あるいは仕事がいっぱいあることによって、ゼネコンでなくて下職の皆さんが潤う、そういう体制を町あるいは商工会等でつくっていただければと思うのです。そう

いう中で、私も商工会のほうに提案してありますから、ぜひその辺上がってきましたら前向きに考えていただきたいと思います、町長いかがでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 商工会の方面については私のほうから何ともお答え申し上げられませんが、後段の部分については、大野議員にお答えをしたとおりでございます。そのようなことでご理解いただきたいと思います。

〔「暫時休憩」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 4時06分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 4時20分 再開〕

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 町の事業はそういうことで、先ほどリフォームのお話ししました。リフォームは本当に底辺の広がる事業だと思いますので、ぜひ実行していただきたいと思います。商工会においてもその辺は強く話ししてありますので、お願いします。

それで、あとは生活環境の関係で、道路の整備、町道の整備について、こういうのはどうかと私は常々思っているのですが、朝夕の通勤ラッシュは、私はどうのではないからそんなに感じない面もあるのですけれども、やはり交差点において右左折ラインといいますか、右折、左折、直進ライン、そういうものを積極的に交差点部分の拡幅によって推進していただければと思うのです。

今現在、先ほど小島議員とも話したのですが、群銀の北の道路が渋滞している。あれ全体を今十三坊塚ですか、まんじゅう屋のほうを拡幅したり整備していますけれども、あれは相当長いですから、予算的にも相当かかると思うのです。そういうことで、人口は邑楽町2万8,000しかいないわけですから、そういうことを考えた場合に、やはり交通量が、交差点がしっかりできていれば、片側1車線あれば邑楽町の交通量というのは十分間に合うと思うのです。ですから、ぜひ交差点部分の拡幅ということ、調査すればどこが込み合っているというのわかりますので、していただければと思います。その辺について、町長のそういうことについての考えはいかがでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 十字路の、特に右折車線については、これは昨今の交通事情等を考えると、その必要性は考えております。具体的な例として申し上げますが、先ほどもお話が出ましたが、足利赤岩

線のいわゆる122号線、大根村信号の十字路でありますけれども、これについてはトップセールスではありませんが、県のほうに足しげく通い、また担当する課長のほうも真剣にそれを考えていただいて、近々その事業が開始できるかなというふうに思っております。予算措置も県のほうでしていただきましたし、そういう点では早い時期に右折車線等の改良も進むかなというふうに思っております。

根本は、その地域の地権者の皆さんのご理解が第一の考え方、これが大切だと思っておりますから、そういった地域の皆さんのご意見等も伺う中で、大変この十字路は昔から先輩がいろいろご苦労されて今日に至っているということもあります。したがって、近々のうちにそういった改良がなされるかなというふうにも思っております、ありがたく思っているところであります。

それから、3号線と足利邑楽行田線の十字路についても、これは以前やはり同様なご質問がありました。先ほどの足利邑楽行田線の調査を県のほうでしていただいていると、その調査結果が歩道等の整備ということになるか、道路の拡幅ということになるか、これはわかりませんが、その調査結果を見た中で、そういった町道と県道との取り合いということが、おのずと方向性が出てくるかなというふうに思っておりますので、これからも努力をしていきたいと思っております。

本当に交通渋滞というのは、これは特に354の館林古戸線というのでしょうか、この地域も工業団地の造成、それから先ほども出ました運送業の企業も立地をされたということを考えますと、ますます交通渋滞が進んでいくのかなと。今一番苦慮しているところは、児童生徒が学校の通学路で、特に朝、通学時には本当に横断ができないというような状況もあります。したがって、これは改良ということではありませんが、県に対して、公安委員会のほうに対して、信号機等の設置の要望も大泉警察署を通して行っているというところでもございますので、それぞれの担当課が本当に現場へ行って理解をして進めていただいておりますので、議員からのご指摘をいただくことは大変ありがたいわけですが、執行部としても努力をしているということをご理解いただければと思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 今のお話で、土木課長あるいは町長が一生懸命やったということで、国道と、あれは県道ですが、非常にいいことだと思います。町道においてもそういうことがあるものですから、町の事業としてできるだけ推進していただければと思います。

渋滞をしないと、精神衛生上も非常にいいと思うのです。ですから、町民が皆楽しく、明るくそれこそ生活できる、そのためには、全体の長い距離をやるのにはそれ相応の予算も非常にかかりますし、ですから短い本当の交差点部分であれば、足利邑楽行田線の全体をどうのということではなくて、取り組んでいただければと思います。

それと、そういうことで道路整備については、全体をどうこうする、あるいは車1台通ると対向車が通れないという道路が邑楽町には、前も私お話ししましたが、大泉町には本当に全体でゼロか

1本か2本ぐらいなのです。そういうことを考えたときに、すれ違いのできる道路に生活環境を改善するために、そういうのをぜひ前向きに検討していただければと思います。それこそ距離が長くなりますから、多くの地権者の皆さんの協力が必要なのですけれども、よろしくをお願いします。

先ほど町長の話で、安心、安全の町ということで話がありましたが、ぜひ犯罪がなく、安心、安全な町で、皆さんが気持ちよく生活できる活気あふれる町にするべく、やはり町の予算措置もしてあげなければ、しなければ、皆さんの不満も出てきたりするわけで、先ほどのお話ですけれども、税金の確保のための呂楽町の地理的有利性をフルに活用できるような格好の土地利用、税金、所得の増加、そういうことで皆さん、若い人も年とった方もいい気持ちで生活できる財源確保のために頑張ってくださいと思います。

そして、次に入りますけれども、2番目が、これまでの失政の責任と、残された金子町長の残任期間をどのように運営、計画、実行するかということですが、本当に鳩山内閣、鳩山、小沢内閣ではないのですけれども、2年6カ月間の私は失政だと思うのです。公約に掲げたものもほとんどできていないと思いますし、町全体が大きく前進するための町の三役といいますか、副町長、教育長も選ばれていない。そういうことで、そういう事態になってしまったわけですが、この失政の責任、感じているかどうか。私は大いにあると思うのですが、いかがでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私自身は失政という考え方は持っておりません。

さきのやはり一般質問の中でも、町長自身が点数をつければ何点かということのご質問もありましたが、私はそのお答えに対して、満足のいく行財政運営というのにはできなかったかもしれませんが、現時点では公約等、それから町政運営については合格点をつけていきたいと、このようにお答えした経過がありますので、その責任を感じているかどうかということについては、自信を持って町政運営に当たっていききたいと、こんなふうに思っています。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 副町長、教育長がいらないということは、とにかく問題ある町であるし、私はやはりこれは町長の責任だと思います。そしてその責任は、町長選挙以前の問題もあるわけですが、町長選挙で0円を掲げて、それが一番インパクトがあったと思うのですけれども、0円を掲げて、その0円が可能になるための行動、これまでにどのような行動をとったかお聞きします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ご質問の件については、常々ご質問のあるたびにお答えしておりますので、その答えのことでご理解いただきたいと思います。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 そうしますと、退職金0円については、前進していないということですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 その件についても、3月の議会の中で議員からご質疑があったかと思いますが、そのように受けとっていただけたかと思います。現在検討、これから検討するというお話もさせていただいたかと思いますが、これから残りのその年数の中で努めていきたいと、そういうふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 副町長、教育長が選任できないのは、やはり給料の問題も、報酬の問題も大いにあると思います。

また、これだけ行政が町をもんでいる、行政のトップがもんでいるというところに問題があると思うのですが、それではそれを早く解決すれば、副町長、教育長の選任についても私はハードルが低くなると思うのです。そんな中で、22年2月18日かな、19日かな、群馬県総合事務組合ですか、市町村総合事務組合の総会があったと思うのですが、その席で退職金0円の問題について提案なされたのでしょうか、0円の問題を早く打開するために。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 特にいたしておりません。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 なぜ、特にいたしておりませんって。0円というのをやるということであなたは当選したのでしょうか、でたらめのピラで。先ほど質問したときに0円が出ましたけれども、何で努力しないのですか。早く解決してください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 退職金については、先ほどもちょっと触れられたのかなと思いますけれども、ちょっと年数は定かではありませんが、以前の議会の中でその問題に触れられました。そして議員のほうから、そういったことはできないのだという形の中で、しならば退職金の担保とするということで、報酬のカットが上程されたということでございます。したがって、先ほども申し上げましたが、その部分については今後も検討していくということを申し上げましたが、現在その退職金に見合う分を報酬で担保されているというふうに私自身も理解しておりますので、これからの県の総合事務組合の中での議論の中に、そういった部分をこれから取り上げていただけるかどうかは別にいたしましても、協議をしていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 給料を、報酬をカットしたから担保されているということないでしょう。現実には、自分はそのピラを9,000世帯にまいているのですよ、何回も。うそのピラを。なのに、当時は邑楽郡が一つとなって、邑楽郡の代表ではなかったかもしれませんが、現在は総会に一員として出られるわけで、同調者がいれば簡単に提案できるのです。なぜしないのですか。担保されているというのは、当選については担保されていませんよ、でたらめで当選したのです。でたらめのピラで。そうではないですか。とにかく同調者がいれば提案できるのですから、なぜ2月の議会に提案しなかったのですか、私は何回も言っていますよね、早くやりなさいと。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 これは、議員もご承知かと思いますが、退職金というのはその任期を全うして初めて退職金の発生があるということをご存じかと思いますが。公約の中で、退職金はいただきませんというのは、そのとおりです。したがって、そのことができる、できないという議論の中から、できないという議員の判断の中で、それでは退職金に見合う分を担保とすることで議決をされたというふうに思っております。ある議員については、それはおかしいよということでご意見をいただいた方もおられますが、そういった経緯の中で考えているということでございます。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 半分になっているから、担保しているからで済む問題ではないのです。担保、担保と言いますが、現実にはそれは不可能なことをやってのけたから、私はいつまでも言っているのです。だから、その担保するのを早く解除してくださいよ。そうしたら副町長も教育長も選びやすくなりますから。

現実には、こういうもめている行政の中に飛び込んでくる副町長、教育長は、なかなかいないと思います。それを解消するために提案していただきたい。なぜ提案しなかったのですか。みずから提案はできるのですから。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども申し上げましたけれども、今後検討するというお話をさせていただきました。残りがまだあるわけなので、任期期間がありますので、その範囲の中でまた十分努めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 町長、4年で終わってしまうのですよ、もう3年たったのです。3回目の議会が開かれてしまうわけですよ、そうしたら臨時会開いていただくのですか。頑張ってくださいよ、同調者がいればいいのですから。提案ぐらいしてくださいよ、何でそういう努力をしないのですか。でたらめで当選して。明快に、的確に答えてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 検討していきたいと思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 先ほど報酬が半分になっているから担保されているという話が出ましたが、それはただ単に金銭的にそれに見合うということで、全然担保されていないのです。金で云々ということではない、町長はそうではないのでしょうか、実際に担保されているのは金銭的な部分だけなのです。金銭的部分だけでなく全体を、その担保を解除するために、自分で公約で掲げて、あれだけB4の大きさのピラですか、A3ですか、それを配りまくったのだから、それについての努力をお願いします。今後努力ではなくて。なぜ2月18日に提案しなかったのですか、同調者が1人いればいいのですよ、群馬県じゅうで。もう一度答えてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども申し上げたとおりでございます。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 どっちにしてもでたらめで当選してしまったわけで、自分の町長になる以前の裁判等の問題があれば、やはり邑楽町は今後金子町長がつかさどっている以上は、ずっと混乱すると思います。そういうことを考えたときに、やはり町民のために何をしたらいいか、現実に年4回定例会がありますけれども、混乱といいますか、執行部に対する、不適當だということていろいろ混乱ありますけれども、それを解消しなければ邑楽町町民のためにならないので、その責任、公約の実現もほとんどしていない、そういう中でそういう責任のとり方ということを考えて、町長進退を考えていただいて、町民の信を問えばいいと思うのですが、いかがですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 与えられた時間を町民の皆さんのために粛々と努力をしてみたいと思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 執行部と執行の長と議員ということで、やはり議員は与えられたチェック機能がありますし、いろいろあるわけで、そういう中でお話ししているわけで、現実に邑楽町がこれだけ、はたから見ると、私はたまたま一部事務組合3カ所、4カ所させていただいているので、あちこち会議に出るわけですがけれども、その中で……

〔「この間も言ったじゃないかよ、そんなようなこと」「自分で書いたんだろう、そんなことは。よく考えてから言えや」と呼ぶ〕

者あり]

○相場一夫議長 静粛にお願いします。

○6番 小沢泰治議員 そういう中で、現実にはやらせてもらっているわけです。そういう中で、実際に外に行ったときに、邑楽町は何やっているのだ。大泉のところ行っても、まだ邑楽町はもめているのかいということと言われる。非常につらいですよ。それが、議員が原因ではないのですよね。ただ一言に言うのは、議会何やっている、議会何やっているのということなのですから、その辺町長自身、責任感じていないですか。

○相場一夫議長 金子町長。

[金子正一町長登壇]

○金子正一町長 ぜひよい町をつくるために私も努力をいたしますし、議員の皆さん方にもよろしくお願ひしたいと申し上げます。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 私は1年生議員なので、とにかく裁判だとか、町民ですからいろいろもめたということについては影響あるわけですが、直接それにかかわっていなかった状態で、私は現実的にいつも議会に立たせてもらいますけれども、いつも第三者的な立場に立って物事を言っています。山田さんみたいに自分のエゴでどうのこうの、町を訴えたり何だりしている人間ではありません。客観的にものを判断して、仕事柄もそうですけれども、その事案に対して対処しているつもりです。そういう中で、ぜひとも……

「それは失礼だよ」「よく調べてから言えよ」と呼ぶ者あり]

○相場一夫議長 静粛にお願いします。

「よく調べてから言えよ」「議事進行」と呼ぶ者あり]

○6番 小沢泰治議員 現実を話しているのです、私。

「名誉毀損だよ」「冗談じゃないよ」と呼ぶ者あり]

○相場一夫議長 進めてください。

○6番 小沢泰治議員 そういうことで、いつも第三者的な立場に立って私は質問させていただいていますので、今後も邑楽町がよくなるように、また外部から見てもすばらしい町になるように、財政的にも、あるいは社会資本の整備にしても、いいものになっていけば、それこそ先ほどの町長の話ですが、非常に子育てしやすいところだ、環境がいいところだ、恵まれているわけですから、それをフル活用できる行政の体制、トップの体制、それをつくっていただければと思うのです。

最後となりますが、今後残された1年半の中で、掲げた公約をどのように実行していくか、先ほど前の議員の質問にもありましたが、ぜひ最後にお聞かせください。

○相場一夫議長 金子町長。

[金子正一町長登壇]

○金子正一町長 町民の皆さんに約束した部分については、与えられた時間の中で実現できるように努力をしていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 金子町長のスピード感あふれるパワーとトップセールスを、残された1年半、期待しております。ぜひ退職金の問題につきましても臨時会等開いていただいて、町三役の方々に満額が払えるような体制をつくっていただきたいと思います。当選した当時は、みずからが邑楽郡の代表ではなかった町長ですが、今は町の代表としてその会議に参加できるし、しているわけです。ぜひ公約実行のために努力していただきたいと思います。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎散会の宣告

○相場一夫議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす16日は議案調査等のため本会議を休会したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 異議なしと認めます。

よって、あす16日は議案調査等のため本会議を休会とすることに決定しました。

来る17日は、午前10時から会議を開きます。

本日は、これにて散会します。

大変お疲れさまでした。

〔午後 4時56分 散会〕